

河內名所圖會

六



河内名所圖會卷之六

讀良郡

慈眼寺

本堂 羅漢堂

阿彌陀堂 藥作堂

牛頭天王

太子堂

駒山

山

深野池

龍間寺

龍光寺

菴間

棹正行墓

長歌碑

和田源秀墓

雁塚

國中神社

清滝嶺

清滝溪

龍尾寺

須波麻神社

御机神社

飯盛山

飯盛山城

水室址

忍岡

津鉾神社

高宮神社

大社祖神社

細屋神社

秦氏墳

鍛冶行綱宅址

茨田郡

度屋川

徳菴川

高瀬川

高瀬淀

高瀬里

高瀬神社

常彌寺

石塔墳



彫工 井 市 無 備

堤根神社
 名産糟菜
 大窪莊中西家
 神寶
 菅相寺
 大歳祠
 古川
 蹉陀川
 龍光寺
 意賀美神社
 伊加賀
 牧方故城
 西本願寺御坊
 監船所
 野口
 三社権現祠
 佐太
 來迎寺
 茨田池
 絶間池
 蹉陀池
 光善寺
 百濟王
 山崎院趾
 牛頭天王祠
 鷹塚山
 名産蓮
 加入洲
 白山祠
 佐太天満宮
 茨田故堤
 杉子絶間址
 蹉陀山
 大塚
 官女塚
 牧方驛
 萬年寺
 藏ヶ谷
 津島郡神社
 守口驛
 供御領
 蛇池
 蹉陀山天満宮
 三ツ井
 膳塚
 御茶屋
 東本願寺御坊
 牧方渡口

交野郡

巖船
 住吉祠
 星石
 獅子窟寺
 天福石
 虎嘯石
 觀音寺
 氷室趾
 梅塚
 平塚
 觀音寺
 穂谷川
 博士王仁墓
 船返滝
 八幡宮
 蒙盆女址
 須弥寺
 私部故城
 本塚
 元寺瀧
 津田故城
 尊延寺
 國見山
 妙見山
 旗立松
 明光寺
 嬰見山
 光通寺
 中塚
 交野山
 三宮
 杉妙泉
 小山墓
 妙見祠
 星田尊蹟
 本寺掛堂
 傍尔川
 長寶寺
 満家
 機物祠
 觀見池
 明尾寺
 安樂寺



通月とつげつの雲くもをよ不ふ来来一
 難たがひ波なみ人ひとのまには海うみ人ひと
 水みづみうのわれく歩あり
 海うみのゆくふささ乃の
 春はる乃の無なきな也や

み久ひさききを
 寒ふゆ一
 日ひのれの
 山やま

東山

山田池
 鳥立原
 百済王祠
 郊祀壇廢蹟
 渚杜
 久須々美神社
 葛葉野
 继繩別莊
 百濟王慶仲

大池
 百重原
 中宮池
 波瀲院古蹟
 渚岡
 二之宮
 樟葉宮
 弥勤寺址
 文黒

天あま河がほ
 車くるま塚づか
 宇久木塚
 交野神社
 舟橋川
 楠葉渡口
 帳掛松
 黄金橋

交ま聖せい原はら
 和わ田た寺てら
 長ちやう者しやう故こ居き
 一いち之の宮みや碑いし
 片かた足あし羽は川がわ
 釋しやく迦か堂どう
 百ひやく濟せい王おう敬けい福ふく
 洞どうヶが嶺りやう



野崎観音
天王社



河六八三

郡良讀

讚良郡

東と和州平群郡の界小至とある湖田郡の界小至と
南と河内郡の界小至と北と交野郡の界小至と

新橋六帖

此の河内路小野をたててつるに

あまふま
行家

福聚山慈眼寺

聖徳太子御
禪宗曹洞

牛尊十一面觀音

唐作長三丈六寸又三十三所
觀音堂小安ん

藥師堂

牛尊の南

阿彌陀堂

某師堂の
傍小あり

羅漢堂

十六羅漢四天王
松安ん

撞堂

法ちの傍

支那山と南天竺波羅奈國大悲の聖蹟を摸して古刹と傳
幸年既小深し今小至く寺前乃澤松人吟ん波羅奈澤

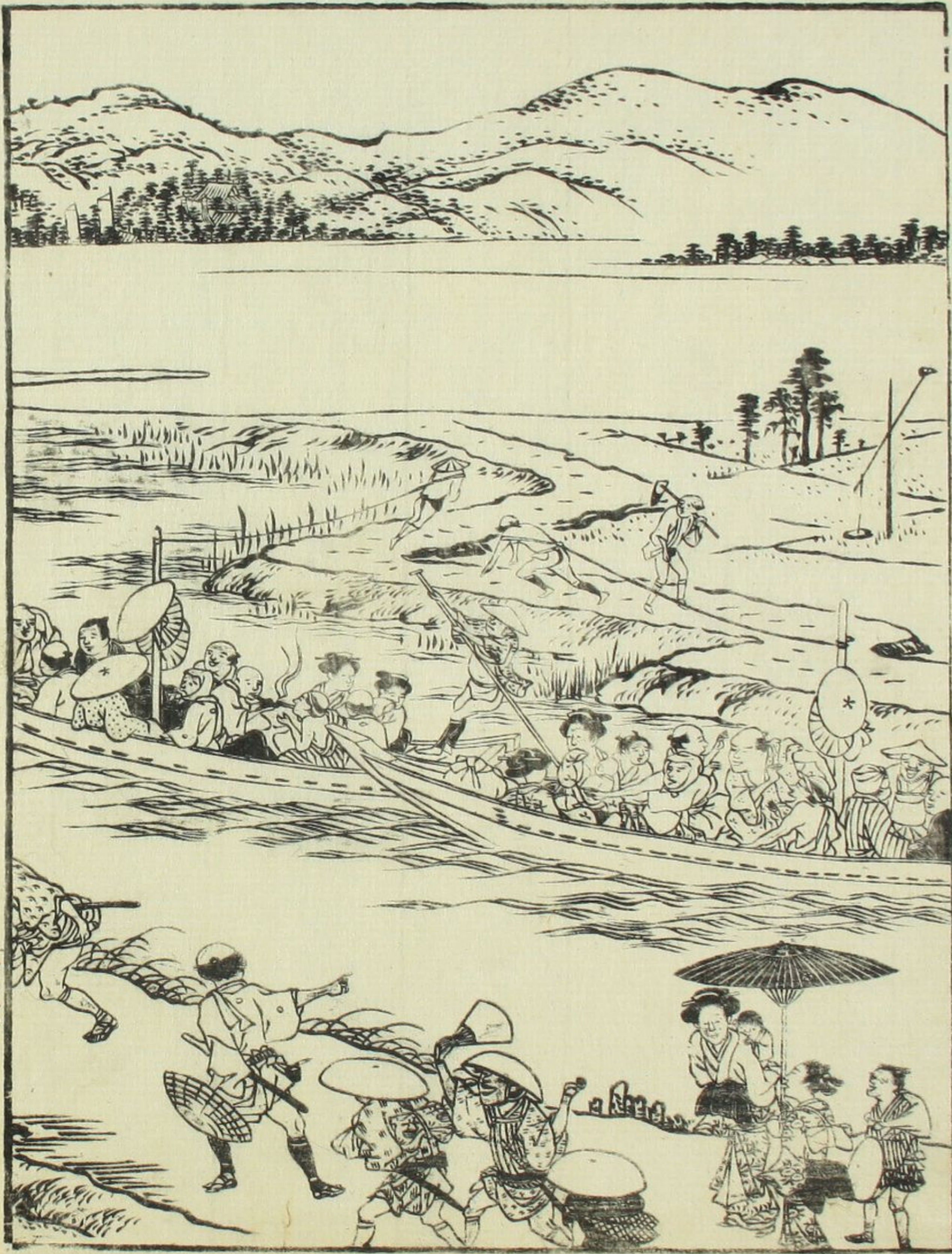
堂の惜哉中古以来傳記喪びく只郷童の口碑然證とん
故小開闢の年代幸實詳るは大悲菩薩像も何人の跡めり

寺宇の権輿も分明るは拵一條院浄宇小拵別難波にん
波口小住しく由く之の穢客飲食も其女あり世小くを

江口君とらふあつ沈病小罹く醫療の驗しふかし常小

聞ると和州初瀬寺の親母靈應殊小勝とせぬ既小かの地り
泰菴しと懇小務り七日満願の時靈爰感て瑞慶る高僧
来りく曰河州野崎福聚山と我小異ゆは其所の大悲小懇
求せば所願空し加は妓女羨覺く歡喜し直小帰くは宗
来り牛尊が故禮七晝夜小満ぬれを忽病悩治金にこれり
傳聞く四來の緇素遠村近郷と小群れ又野崎を去る
二里許あり御供田中名にたるものも尚寺の設け宛ぬる
厥后 龜山帝の朝小権大僧都實慶尚小寺職して弘長
元年小寺記を書り又 伏見院の浄時沙門入蓮あり小
徑しと衰弊なりしと力を優婆塞泰成小勸くを慨
せしは時小立石塔婆今小存れ又其後弘長八年松永
久秀志貴棟小築りて近隣勅札の時佛國兵變小罹く
灰燼中なる湖牛尊實慶寺記の遺り其より今の

橋花屋
 此の世の
 親若人
 無縁
 舟波男
 女おの
 橋花屋
 伊もあ
 又橋花
 所いめ
 まいも
 みる長
 風真
 高



龍尾寺



如く再營あり其を毎級經とて橋花白く頂秋を和みし
て山之峰ありふ浪花津の老少あり小群ありあると川舟り
掉して道ゆく人と言葉扱ひて諸なる米多し是と母湯春と云

牛頭天王社 生主神と云

太子堂 聖徳太子の御坐所なり本願寺宗派

駒山 諸本森然あり

深野池 菅野村の管内あり討境廣きなり今埋く田圃也

龍間寺 龍超山と号す

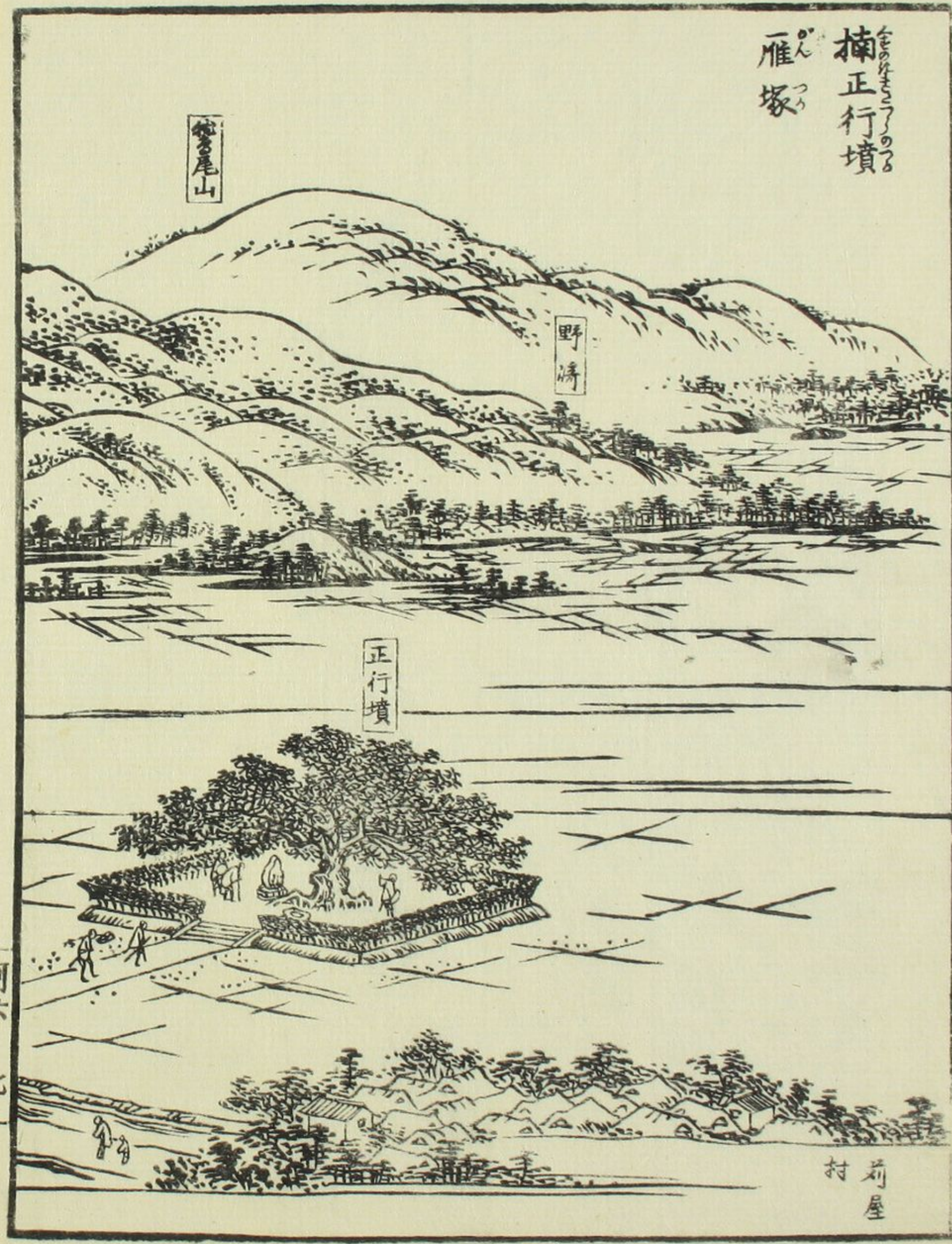
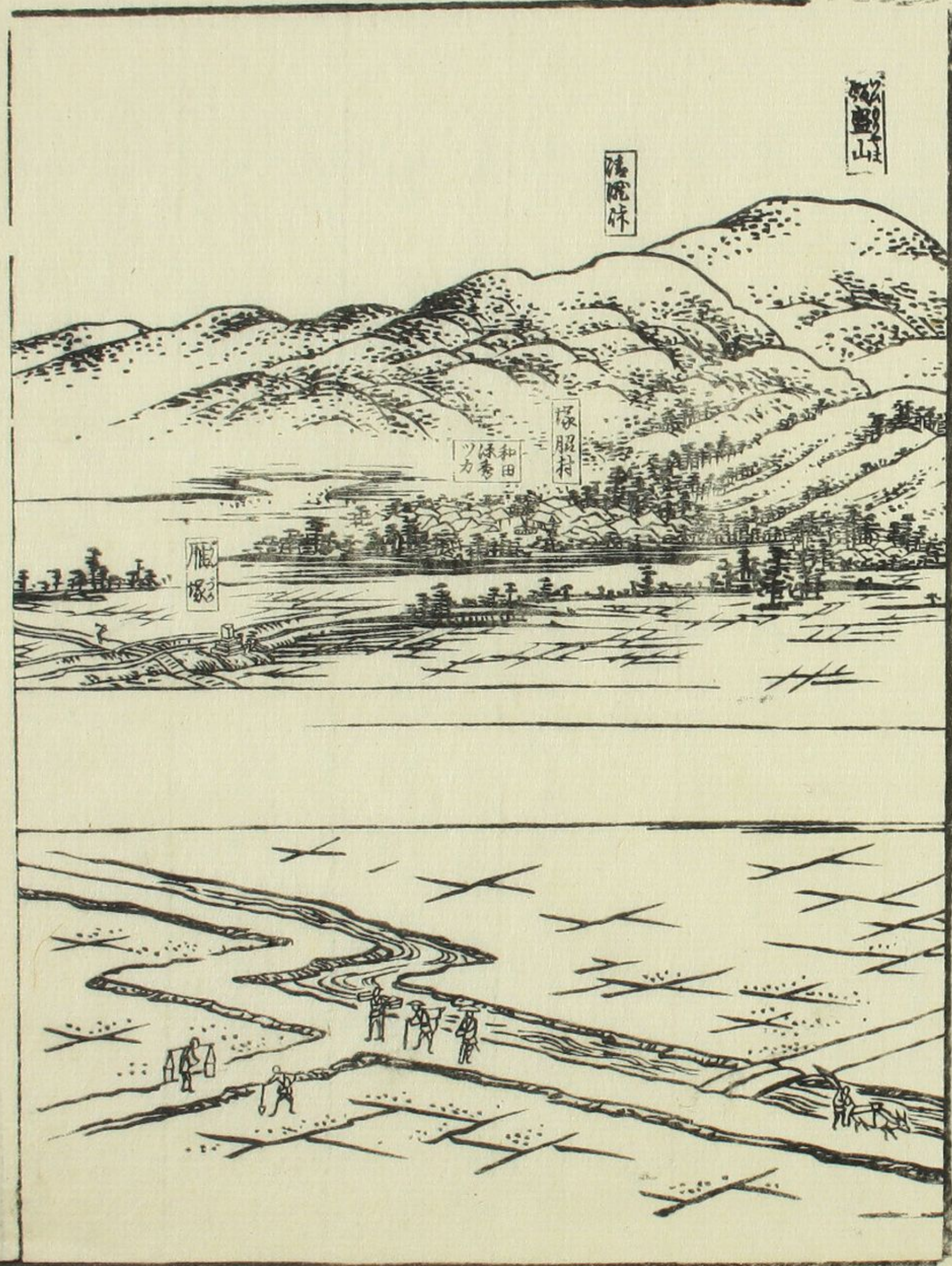
本尊千手觀音 長三尺五寸什變あり
佛舍利あり

龍光寺 慈回經寺村あり

本尊十一面觀音 秘佛當寺と云 敏達帝の御基よりと云 伽藍觀音
より其後源頼朝御寺ありと云 及之の

兵火之類廢し 本尊亦州中不安 聖徳太子元祿年中僧
の玄光再興れ

竜間川 川入一名寺川と云



忠臣楠正行墓

甲午朝の属村其村の東にあり傳云証平元年四月五日

楠正行の墓は南無権現と稱し後人権現の文をうけたり
其墓の傍に石を築き其石に楠正行の墓と刻せり
其墓の傍に石を築き其石に楠正行の墓と刻せり
其墓の傍に石を築き其石に楠正行の墓と刻せり
其墓の傍に石を築き其石に楠正行の墓と刻せり

是れを馬武者を退攻く討ぐと相ぞかりり及れされども多々の
敵ども四角八方へ退散く降直七十騎あり相れを何程に
幸りありと一思ふ心をちりしめく和国捕野田園地良園河
石掬丸われされくと我進する能く相理なくゑられ

師直已小引色不見之なる変ふ五國の作人須々本四郎とて強弓を

矢法を早三人張ふ十三本二伏百歩不柳の葉紙をまく百矢とた

計取集く雨の降るや矢評孤持く射たり一日著暗く

物具されも中や當る矢筈深ふまねと毎りらる捕は即眉間と

ふえのころは射られく技程の氣力もか一正行を左右を膝口

三所右の頬先左の目尻筈深ふ射られく其矢を野の霜不臥る

く如く折衷されも夫とくもまきく効り其外三十餘人の兵とも案

二筋四筋射られぬものも無り及れ今も是と我を敵の子小ゆか

かともく挿足身を違へ北松不卧たれも自解の兵二十二人思く小腹

切て上る上小重く即を和国新獲意いりしと給まてりり人昨直

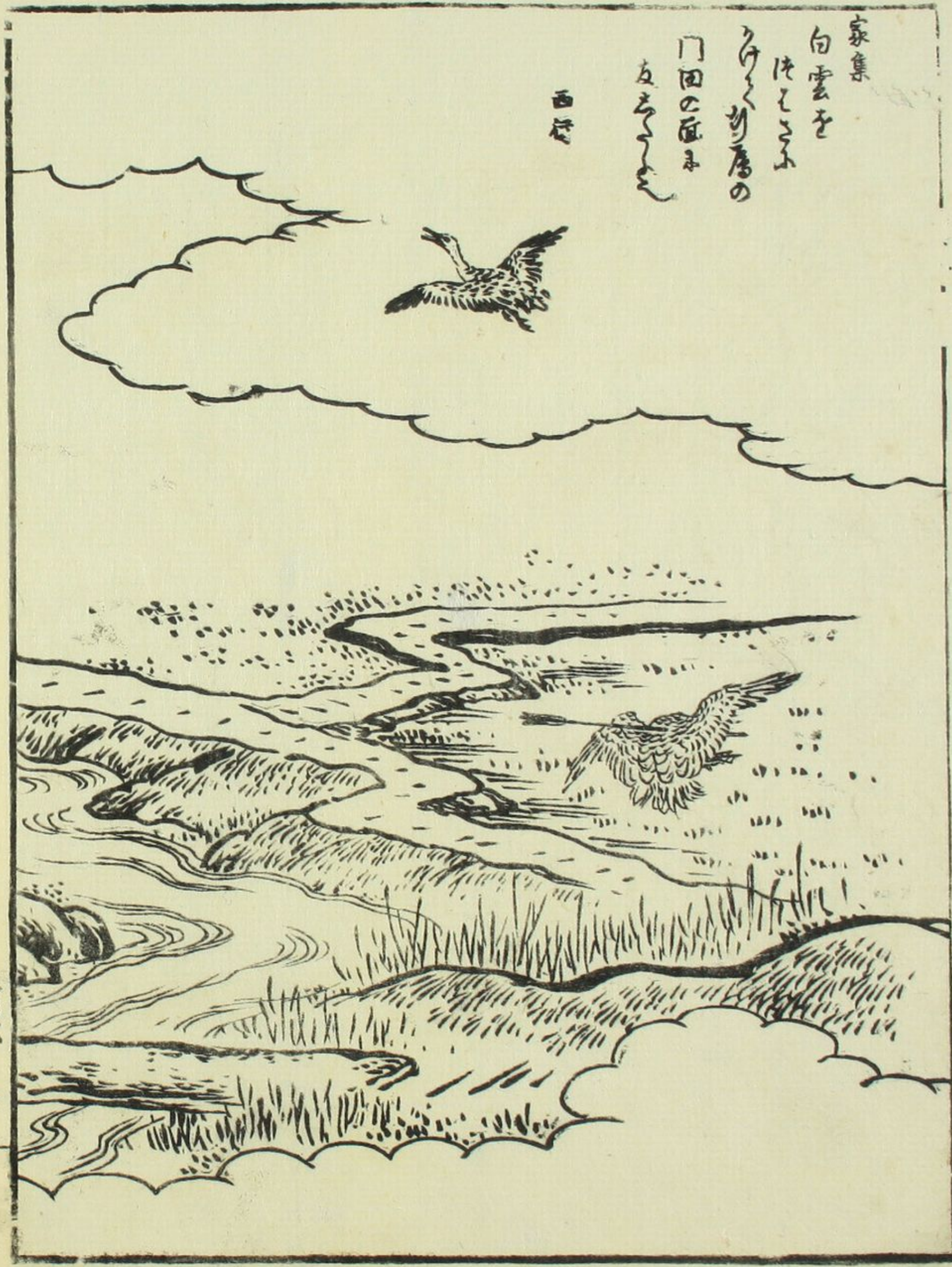
兵の中不交りく武蔵守不居遠く死へと近付り及れと此程の内

より降参りりり湯濱本宮を即左衛門と云及居者これを

見知り相田が後へま回し諸膝切く倒し所を走寄て頭瓜捨んぞ
 ちりふ和田新殺志本孤酒ごす赤めくある大の眼を見開く
 湯浅本宮を丁と睨む其眼終不塞ごし湯浅不首孤せ
 取られざる大剛の者不睨されく湯浅臆してや有らん其日
 痛付く身心悩れしるる仰ぶは和田を忿る顔之を見へ俯
 新發意を睨める眼地不見えく悲雲五體孤責し軍散
 して七日を申し湯浅あうた死を死より所之塚掃非助
 手と負しうける挿ふ孤跡ふあうしとて放馬のあり
 乃不打ち棄く遠不為途しりたる和田挿討れしりや聞く
 只一騎馳歸く大勢の中へ意へく切死ふらせ死ふられ
 〇吊棒帶刀君之古墓歌 洛東老樵閑田廬蒿蔭迷
 ちり姑実乃 父のとくを けりて葉の とれいあふ まけりひく
 かこえもよ 赤めくきの 活代をよとぞ あのが代まん 妙よとをひて

あけさゆみ とうほくつ 海がゆふ けさまりし うらひとま
 ねくつたふ ちりやうも みれぬ泪の 何れと物る 其せうり
 風乃やうり きくふ中を 妙形しさい まねの荒野れ ありあはの
 びらむんを かじをねく 時をまけあ あしと成徳 海にゆき
 かくまがり 意れりてあて 海うらんを あつた此身を 仇うらま
 きてい物んと ちりたふみ うし善繩の 死とすちふ さいごめて
 ごとくせふふ ねうふなむ あしぬ身まん 飯乃きりと 何うは中
 ふとえあけい せむしはし 妻さききと 何うくぬの ちりもまに
 ち原野色の 赤とけ葉が 志うあれや 親のう海孤 ちりろあ
 君かまめなる ちりほりも 志罪ふ賊し 挿の樹ま 石ふねま
 世徳人結 ちりたふつ ちりたふの ちりたふの ちりたふの
 成就の時節を候のし

平山を望み碑ふまに微際ありき四人は古懐の地と遊隣九ヶ村ま
 湯浅のしりし論決一定せられ其九ヶ村の中し三ヶ村も是れなりとらひ六ヶ村は



家集
 白雲を
 決てこふ
 うひくし居の
 門田の面々
 友とて

西行

河六ノ寸

和田源秀墓 甲可南の地 塚原村森下氏の地あり和田新慶寺に

雁塚 中野村田圃の中あり寛延二年 傳云文明の頃は里小狩人あり

國中神社 中野村小あり延喜式出今天神と移る

法源寺 甲可南の東にあり山中小巨石多く経路小敷に時

清滝川 地源法源寺にあり甲可南に流る河内村に至る

龍尾寺 甲可南の属村法村あり

本寺十一面觀音 春日の化長三尺三寸初行基の岡墓とあり

須波麻神社 秋登穀延喜式出中垣内村あり

御机神社 中野村の属邑大上あり延喜式出

飯盛山 北條村の東にあり山頂平にして秀景松森鬱々として

飯盛山城 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

飯盛山 正平三年高直の河内綿布焼あやあり

津梓神社 所生の土神あり

法印覺寛 護人あり

茨田郡

高宮神社 高宮村あり延喜式曰大月次新嘗三代實祿云

高宮大社祖神社 高宮村の東にあり

細屋神社 磐延喜式小湊郡小入にあり今天神と稱す

親善安重

秦氏墳 秦村あり土人秦川勝の塚と云

鍛冶秦行綱宅址 秦村あり相傳、後相上皇諸別の名通を

苗胤秦色平 秦村あり

茨田郡 東に讀良郡の界あり西に淀川を界あり南を

寢屋川 源良郡にあり秦村を流るる

徳菴川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 一流小高瀬神社の末に流るる

見りては末に流るる高瀬川と云ふ

河六ノ十二

高瀬淀 日所を

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬川 源良郡の枝流徳菴村あり

高瀬神社 高瀬村あり延喜式出今八幡と稱す

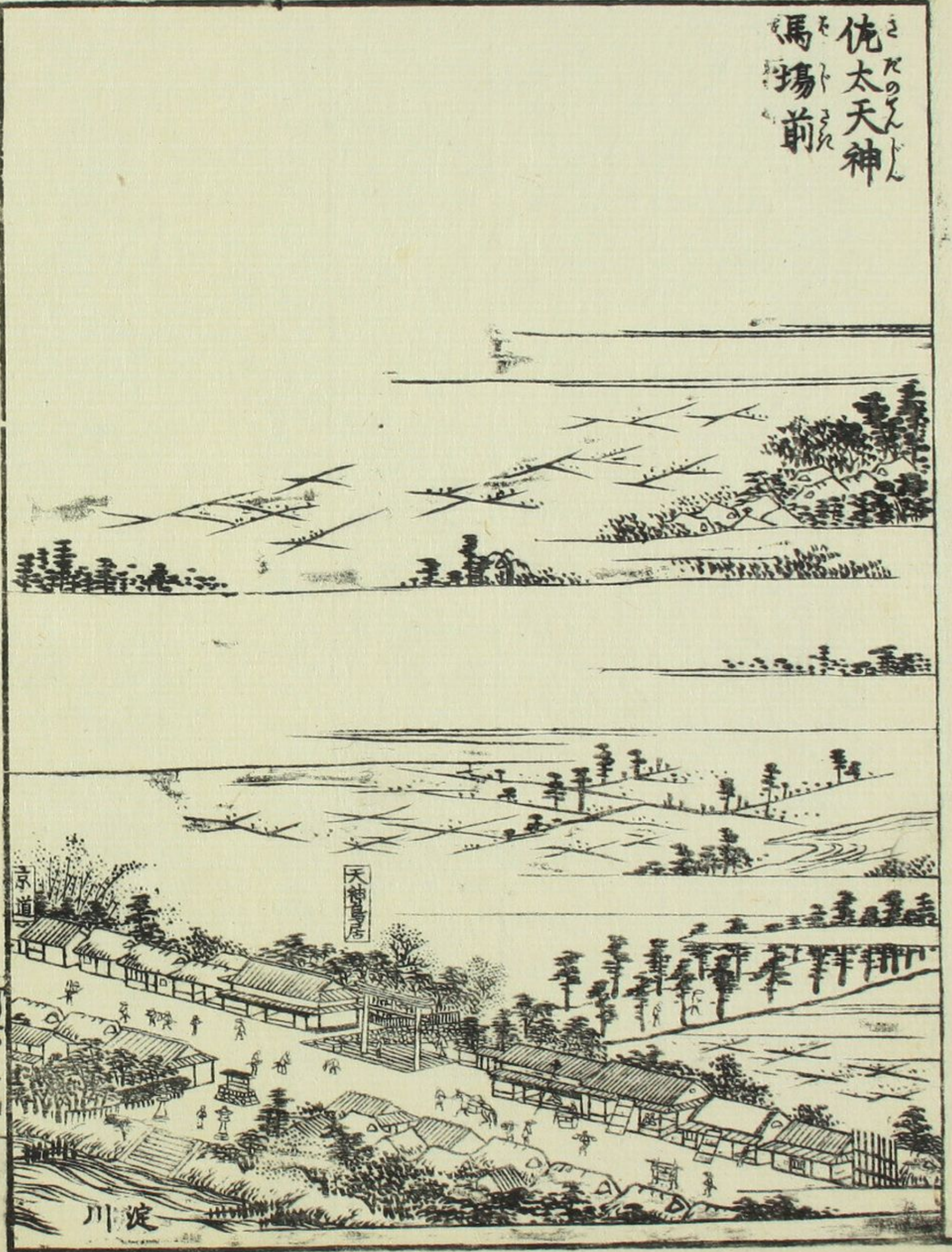
常福寺 世本村あり高瀬と号す

本尊阿弥陀佛 長八寸 藥師佛 長八寸許

高瀬寺 世本村あり延喜式出今八幡と稱す

石塔塚 世本村あり土人新氣式社の塚と云

佐太天神
馬場前



堤根神社 常持寺村小あり延喜式出今天満宮と称んは色常持
例 永九月十五日傳小神官寺本あり

野口 常持寺の持村
夫本
新六

勿入 諸福村小あり土人内助と号よ又日村小千町と号よ
千有
はれかゝい身と志のめんとの表のそむこれ月よあつその測 為尹
信實

守口 驛 榜別東生那の界を西南十二町あり山列の界橋中全橋より
名産 糟菜 守口村より出る長菜藤茄子此刀豆の粒を多く糟菜あり
三社 権現祠 下邊八重二村の場あり

白山 権現祠 六番村の中ふあり相屋妻日の神 畠村と三妻村
津島 郡神社 整敷延喜式出金田村小あり嘉祥三年十一月從
五位下弘授く畠村と野馬の村と共小生土村より

らりりり一紙慶安元年 尚境守原滅列 渡城主永亦信濃守尚政
 彦菅神を尊崇し再ハ社権瓜割小菅なる其ノノ 神威いらる
 して社頭玲瓏く其頃 太上天皇 名香小二枝の梅を
 副く清家附ある其頃と外月の末はうこ形り一ハ社本乃梅小
 二木の枝を接し一ハ勅のおりれあや神使のきりれあや不思議ある
 哉二枝俱ハ婉然と栄く時さるは花咲實瓜修びたり之君の御直ふ
 御製の清威徳哉と神も梅もまはれありしや中四方の人々これを
 ねして感激膽小銘トお膳乃ハ群をさすり社頭の前中と淀乃
 流との川流舟載とねく屋中さくはうふ竹を舟の中より
 名居乃救せると見えると運ねとてりあるもまかりん
 菅公の御神傳と旧記小詳されを今文とふあふらふも乃らりり
 都名所圖會小野の御社の御社にんてり
 渡唐天神像 藤原松梅の御像あり 竹門良尚親王の御像あり
 小野小町 在原業平卿の御社 竹門良尚親王の御像あり
 河六十六

迎衛關白信尋公 其文言

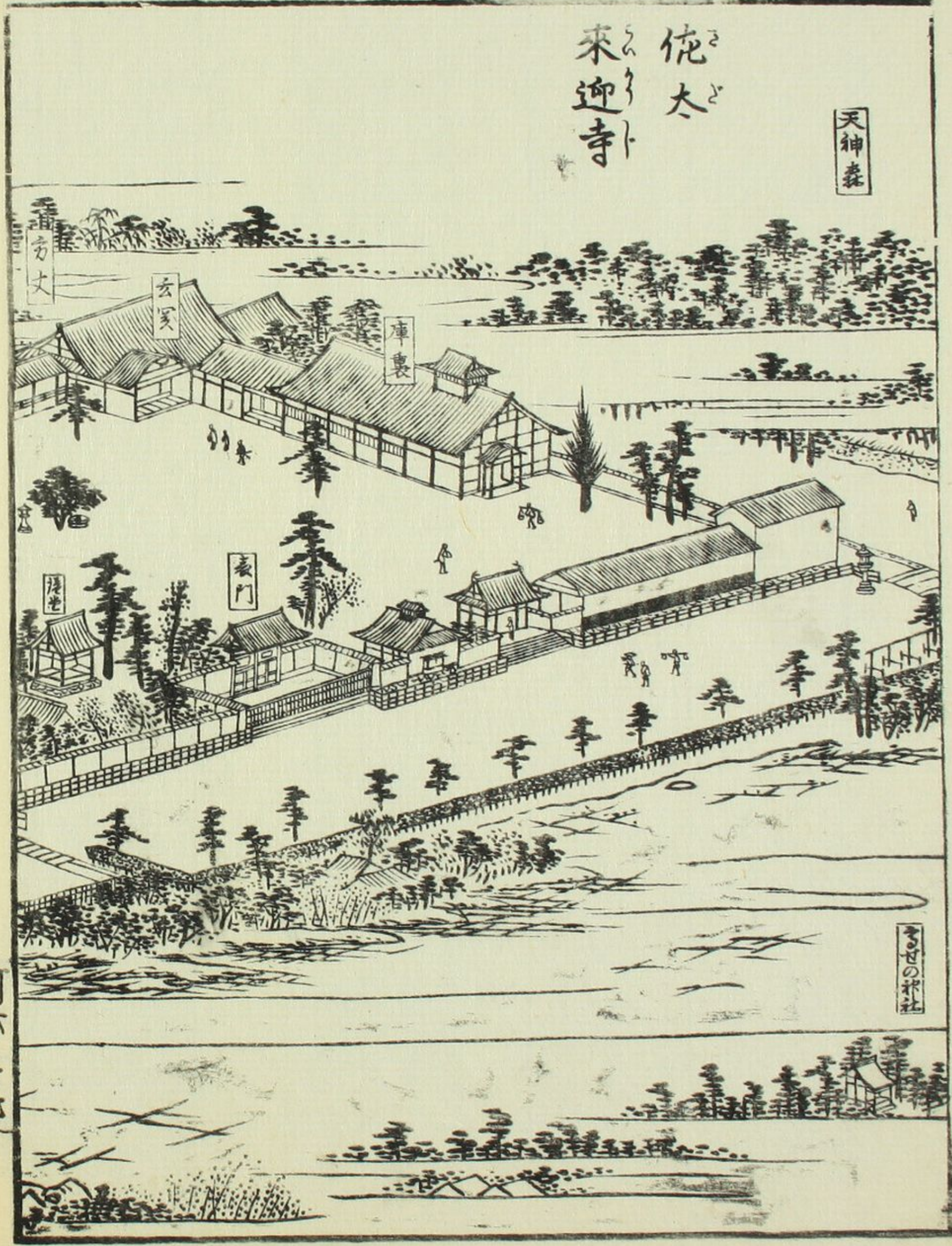
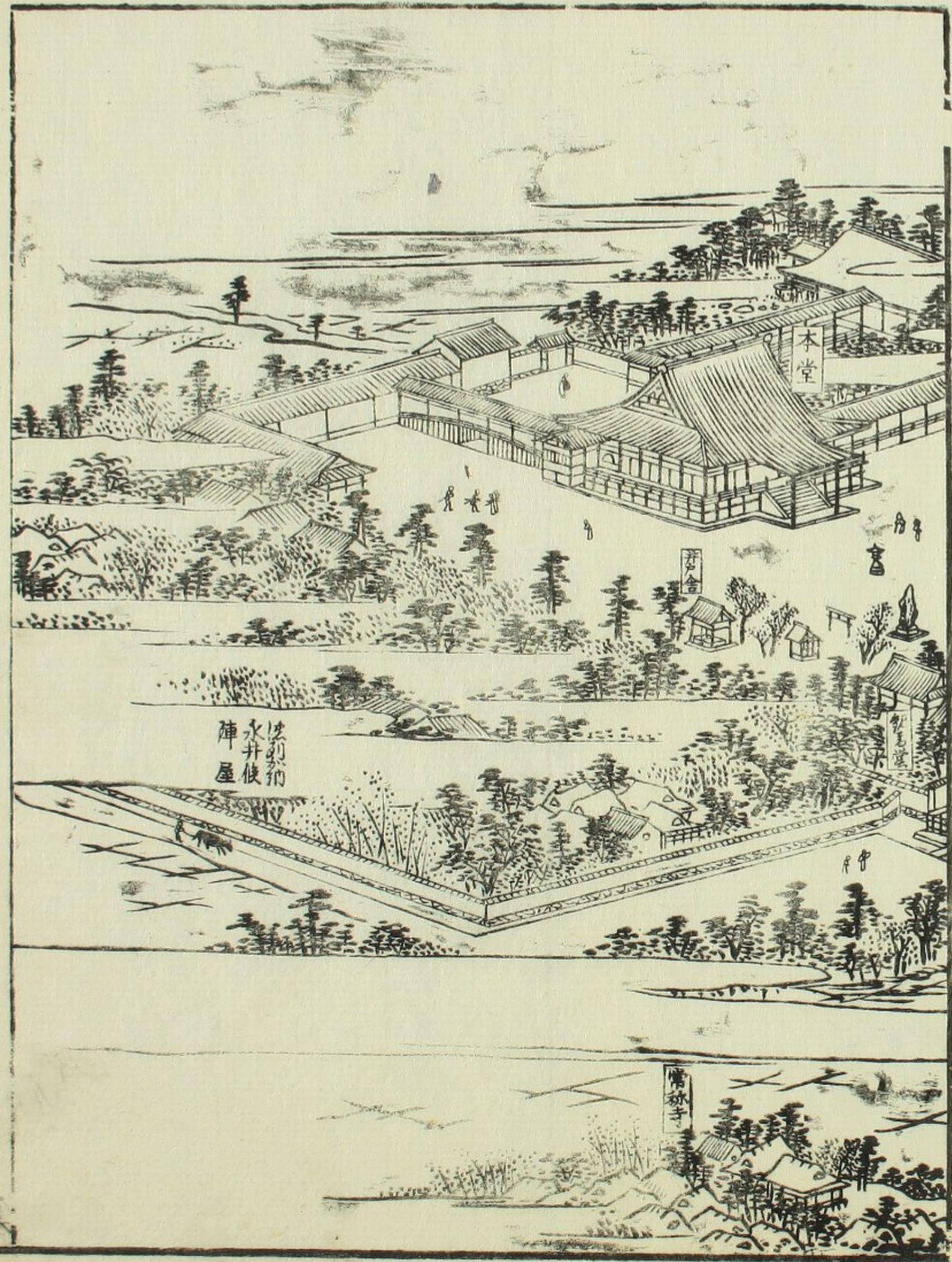
河内國住居とて新中々年毎ハ耶麻乃屋樂此連致せしにらる事はうと送らる哉
 神ヤと云々此れハ六と云々乃と云々

梨地清香合

秋の世れさるるをく 雲ねと名と云々乃と云々 良尚親王

當社神傳云 菅原清左之助 む月廿日 菅原清左之助 菅原清左之助
 菅原清左之助 菅原清左之助 菅原清左之助 菅原清左之助
 菅原清左之助 菅原清左之助 菅原清左之助 菅原清左之助

御前集水鏡御影 御前集水鏡御影 御前集水鏡御影
 勸進沙弥道桂 哥仙 天神地祇 古縁記 六卷
 源六紀 菅原家文料 十二卷 公々合言



菅相寺

佐古宮の後、下河内、奥院を野に
禪宗曹洞三保元年 建立

本尊十一面觀音

行基作 長三尺 藥師佛 此作遷座

秋葉祠

寺内ふあり 連秋所

永平尚庸度碑

備官宜山野節柱凡

紫雲山奉迎寺

佐古ふあり 文念佛宗

本尊天筆阿彌陀佛

石清水八幡宮より感得 龍虎像阿彌陀佛
右開山誠阿上人の傍を 村上帝の傍に

親音堂

十一面觀音

鎮守

八幡宮 星に相模 又 明神

史當山本尊の來由伝聞 深江里小法明上人とて聖あり

山別雄徳山八幡宮小詣して 融通念佛宗弘通依禱ゆいし 六應永

元年六月廿三日 石清水別當善法寺に神勅ありし 曰我は宗

靈路し 多和光の塵小拂し 時機いまで至りしを至く

五百餘家なるをせり 大安寺行教法師傳へし 天筆の佛像今

勅封し 寶庫にあり 當時正小時機至れり 早く勅封を解し

汝より 深江の法明法師 授けりし 靈告ありし 於此は 別當山中

奏聞し 同年七月十五日 齋殿を即し 法明上人 授けりし

亦衆其より 本尊弘融通念佛宗の本尊とて 善く海内と

弘通し 今の本尊とて 檢列任若郡平野郷中 大会佛も

小授けりし 縁起も 大畧曰 文あり 又大坂の八幡文より 法明上人

和泉國泉南郡 法明より 授けりし 縁起あり 其是 非なり 又

番小預り 毎月法會 弘融通念佛宗の 縁起あり 其是 六十八村 月々巡

其由致し 今ふ至り 泉列 紀列の 郷 弘融通念佛宗

文 孫堤 苗郡の 流江川の 堤長サ 二里許の 川、岸に 土人云

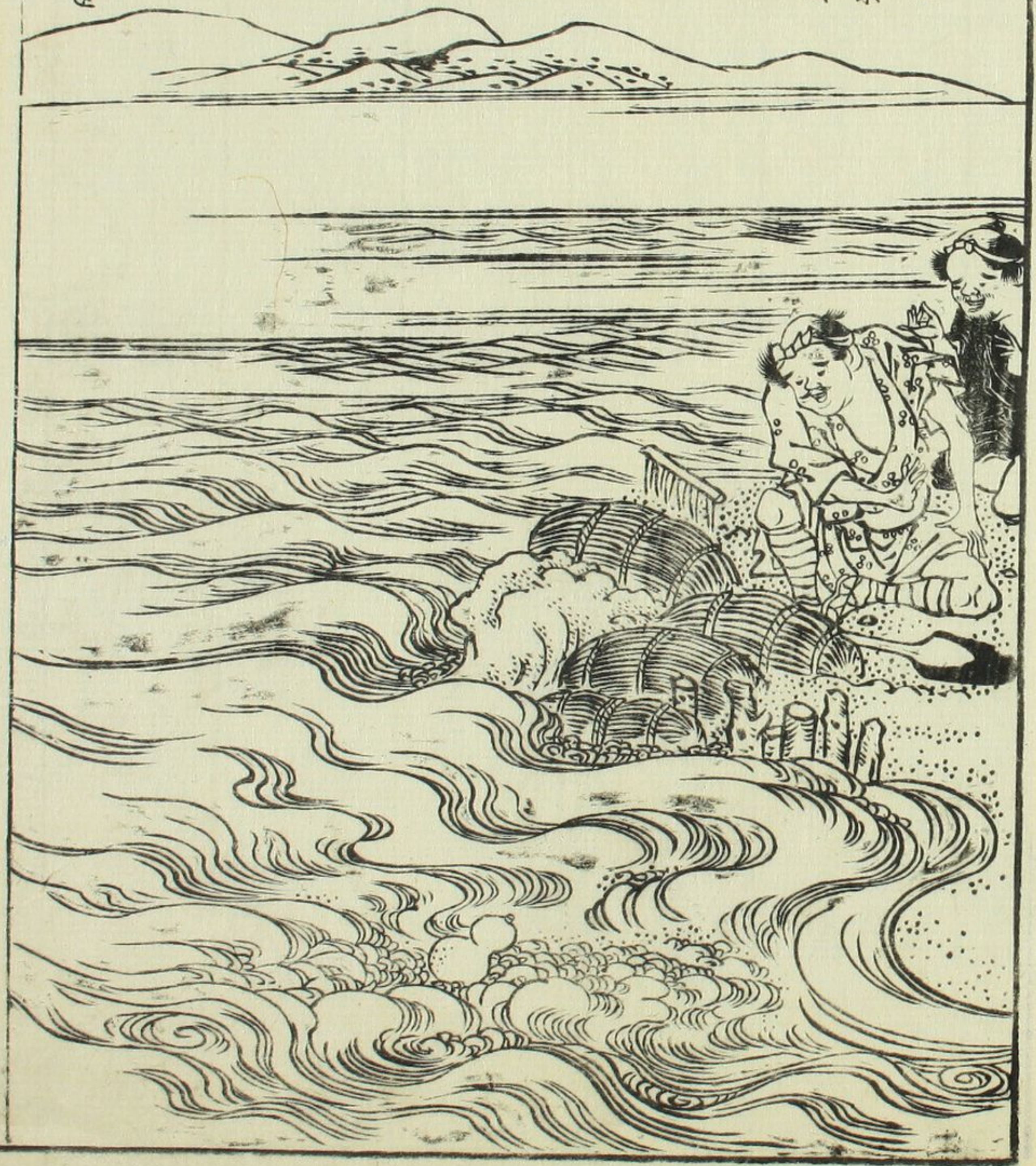
大歳神祠 大村あり け里の 生土 村とて

茨田池 平地村あり 池あり 池とて 入る 池あり

茨田故堤 池田村より 在間 修加賀小至り 故堤 僅小あり

渡川の 橋を 築し あり あり あり あり

子絶間ハ
 茨田地ノ贅小
 奇人車下
 歎々飄の
 謀を以て
 水中の邪
 魔と逆沙
 今成全く
 帝も散感
 ありて
 官禄と
 賜るはる
 五小は
 三紙巻の
 今
 子代通



河六十九

供御領 天長八年五月内國供御領の外おは堀を掘止せし一先
古川 古川野の結村等の諸村堀瓜使然る 堀を復し淀川
安田河に接し入るる南小流にこれと古川と同一名接し淀川
郡下ノ辻村小入子又大を門 寺口川馬出川多みか後川
流を引く小舟
通し農業に便と
絶間池 古川村小あり今水廻る

夫本 絶間池の池乃かたつては中や成や志あり人
六条院 室角
絶間池 古川村小あり今水廻る

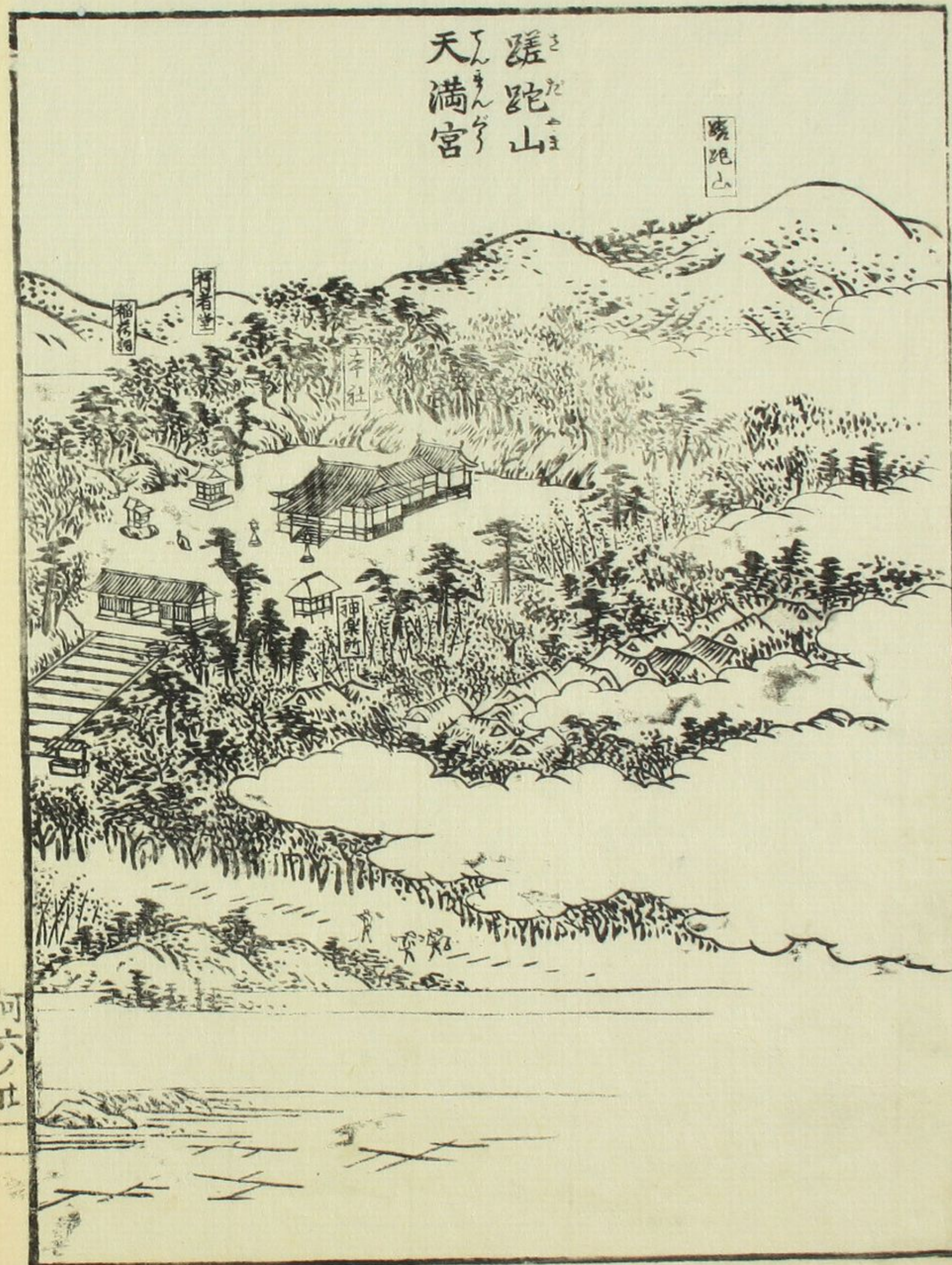
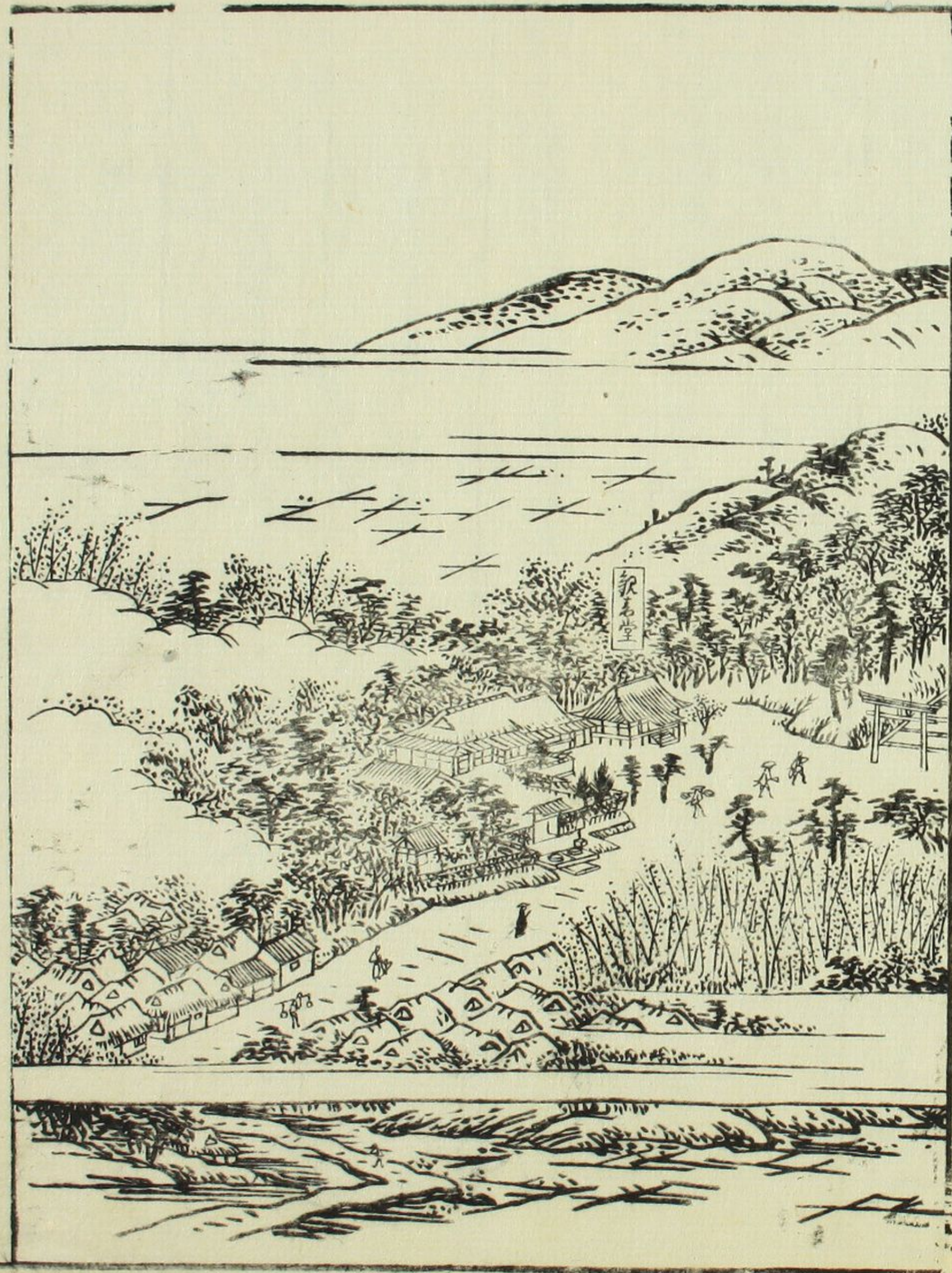
仁徳天皇十一年茨田堤の使は成兩所小築をとりては
中一多し 天皇これを憂くある時一夕河伯公夏見ゆ
は神告く云我を祀り治り武藏人強頸河内人茨田連珍子の
友人孤費中し治り決口の難かし一因茲二人を召くこれ成
命し其の強頸と費とを水に没して死に即其地速に
成就を祈り珍子費とせしれん亦二の金瓶を取く水中に投し

河六ノ二十

拙言て曰河伯實小我を得ば孰かすは沈むべし其時我は沈むべし
身没投くはせん又夫邪祟とふさは孰か人く吾徒不死ん幸と
免るるなり 中水面小向りて高聲小喚を弄りあふ我強頸風忽記て
孰將小沈んとして浮んぞ遂小満満遠く流れり 震役ちひ小
喜び力と敷くこれを驚れ其地成就と珍子恙かし一時の人
兩所築く強頸断間珍子断間とす 強頸絶間と今
本屋村小ありむりしこふ 橋別小属と
蛇池 水原ささの池流く郡村田村小属と
強頸 長谷川小入

踏 踏池 踏池 踏池
古今六帖 踏池 踏池 踏池
踏池 踏池 踏池 踏池

踏池 踏池 踏池 踏池
踏池 踏池 踏池 踏池
踏池 踏池 踏池 踏池
踏池 踏池 踏池 踏池



河六八廿

本尊釋迦佛 聖德太子降誕觀音堂 正親太子降誕觀音堂
行者堂 波優婆塞堂 不動尊の覺鑿佛俱ふしめふみ

尚寺之初聖德王の御建管に於て南に徳満堂ありて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を
魏より南に會堂ありて曼徳其主とて其外殿堂門を

淵埋山光善寺 出口村小あり又梓原堂と稱す

本尊阿弥陀佛 安阿弥他長三尺五寸許在祖師觀音聖人觀

龍女池あり蓮如大腰懸石 尚寺より南に斗小空念とて小農家あり

當寺の文明七年八月本願寺才八代蓮如上人六十一歳の時就前國若寄

山上の御堂より加越國諱の時退去りしに船路を歴く若狭小若丹波越り

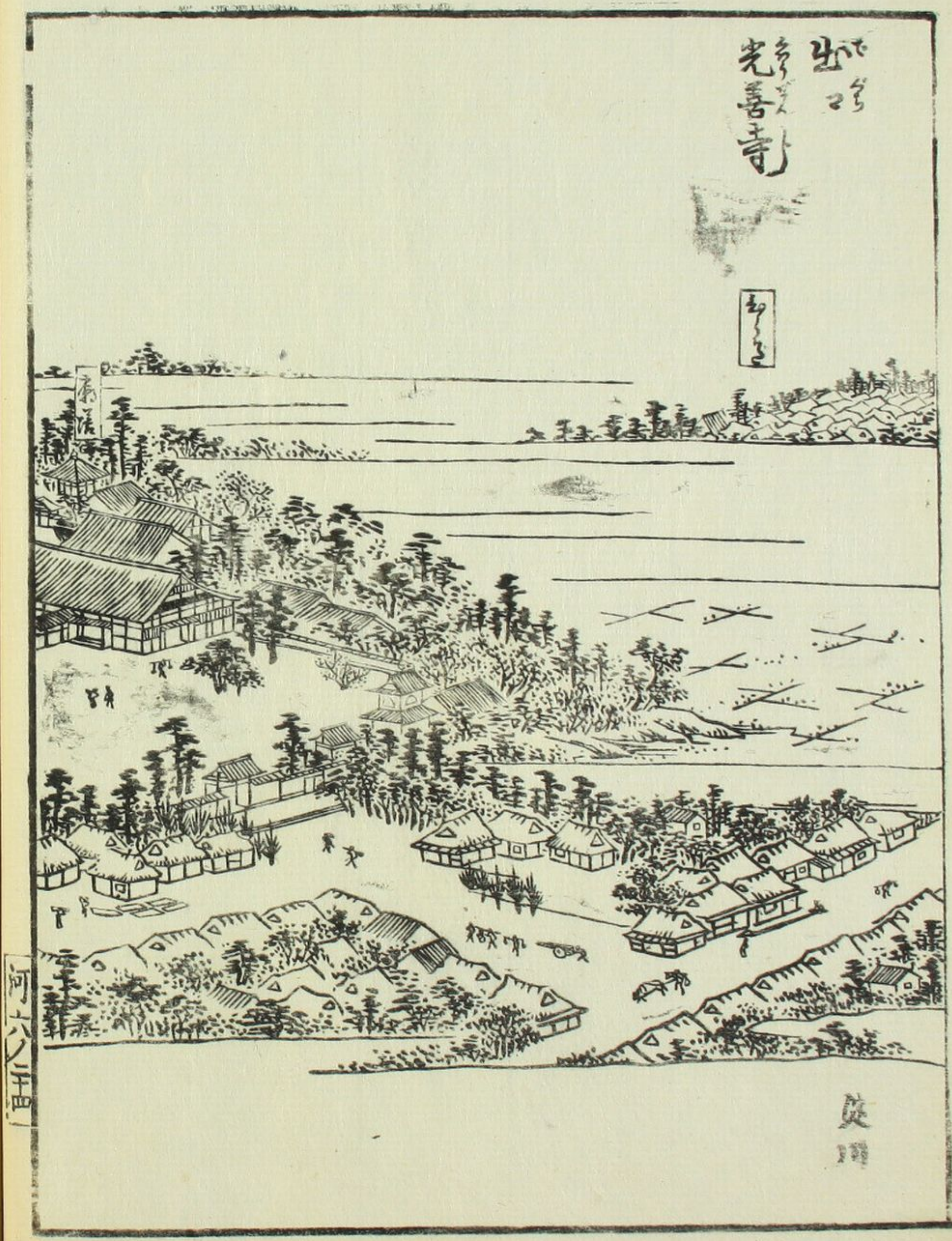
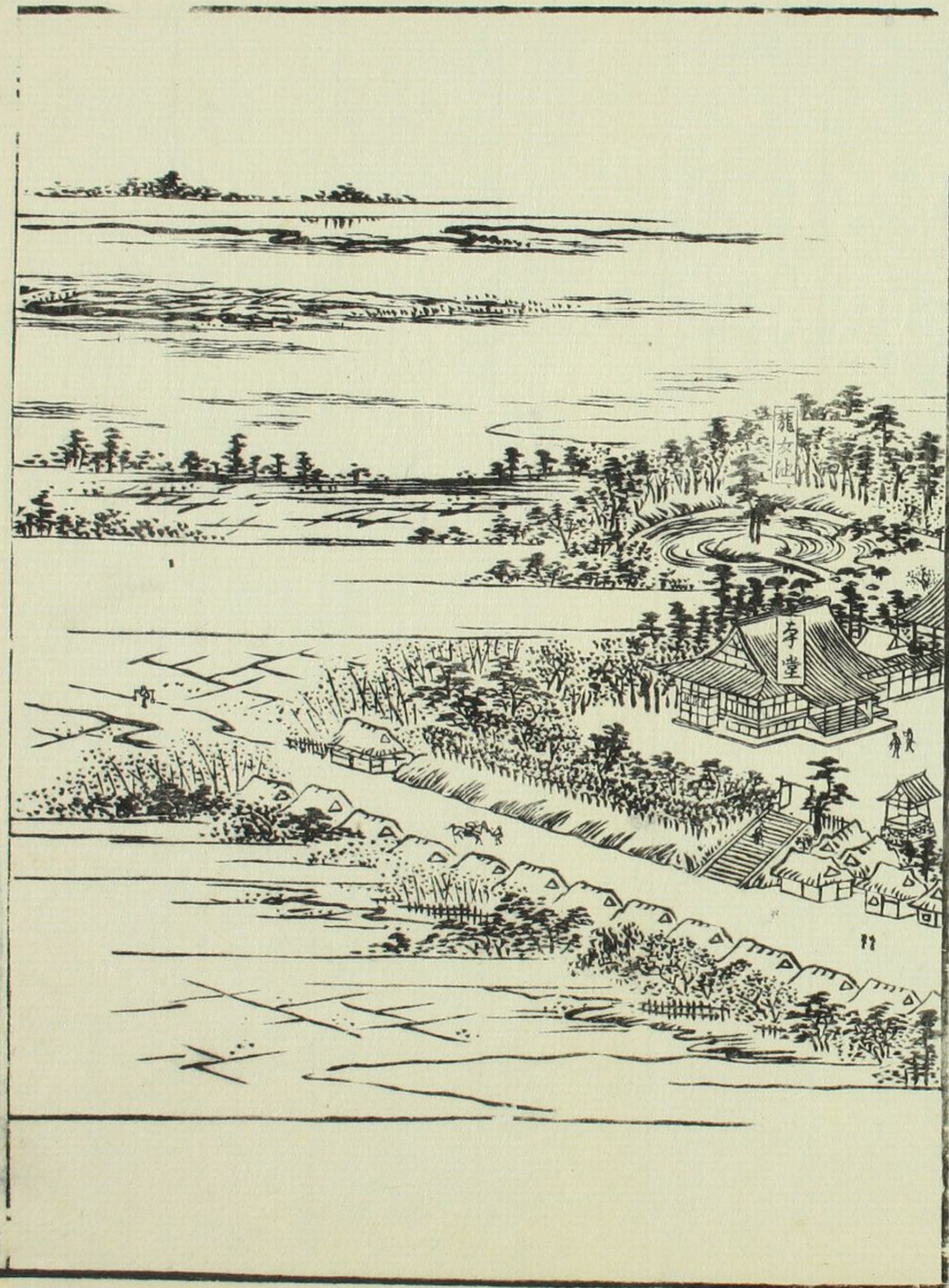
振洋國不至りは里小若丹波越りしに船路を歴く若狭小若丹波越り

素懐深遠より申て自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
此頃の恩謝の爲不加の龍池を上人の上へ一早くこれに埋せ佛圖を
建てる終り我願屋をこれに起る事かや云終りて雲小糸とて又之に
則方四所の池に埋せ今之如く御堂と建させり小故に淵埋山中と稱す
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
に極りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり
其終りて自らは淀川の洲若原の深淵に棲龍女あり

三ツ井 那村の東三ツ井村小あり一名若谷井又二ツ井を圍む村小あり

意賀美神社 伊加賀村の山小あり延喜式不出は所の生土神とて

百濟王女墓 伊加賀村小あり宮女塚あり日村小



出光
善寺

寺

河六之五

河川

加賀 出はの東に伊加賀村とあり、腰の袖、杉木ありとも伊加賀と

類名、所和奇集、多々伊加賀、河内、河内、不出、古、今、皇、王、の、秋、を、引、了、し、平、平、伊、神、の、勝、地、吐、懐、編、不、討、論、あり、其、言、葉、不、云、古、今、物、名、兼、覽、王、權、小、あ、く、伊、波、の、兼、孤、妻、ら、れ、い、う、さ、れ、ら、る、花、を、見、さ、る、年

河内、中、や、あり、う、け、り、ふ、日、記、不、石、少、ま、み、り、く、舟、は、て、居、る、と、て、い、い、り、さ、れ、山、吹、の、片、れ、あ、り、し、ふ、所、を、見、さ、る、草、の、中、う、り、こ、れ、の、中、に、く、や、り、古、今、不、い、れ、あ、の、波、不、保、經、覽、中、い、ま、が、の、く、さ、れ、を、よ、め、る、行、瓜、作、ね、さ、れ、と、く、も、不、道、は、あ、る、べ、い、信、少、純、言、あ、を、め、る、さ、り、さ、い、い、う、く、な、い、く、な、い、と、り、和、名、抄、ふ、河、内、玉、蕊、田、那、伊、香、野、中、あ、ま、さ、と、これ、を、舞、ふ、と、野、と、は、い、く、又、保、氏、不、常、陸、の、橋、中、の、い、り、ゆ、き、あ、れ、を、そ、持、来、只、日、名、あり、定、く、道、は、と、ま、り、ま、り、又、河、内、澄、中、も、伊、加、賀、等、と、て、河、内、淡、田、那、不、出、せ、り、これ、も、澤、あ、る、ん

山 河内、院、趾、三、丈、村、と、い、ふ、日、本、後、紀、云、信、正、の、基、建、ふ、安、龜、四、年、十、一、月

牧方驛 久、り、出、る、と、申、傳、く、た、り、大、坂、内、の、村、名、と、し、生、ぞ、ん、を、遊、び、す、せ、

二、里、を、り、其、中、小、楠、葉、上、橋、下、鴨、湯、葉、野、等、の、牧、村、あり、中、頃、

より、系、滋、道、と、所、竹、藤、舎、を、津、

御葉屋 牧、方、の、中、少、あり、天、正、の、頃、豊、吉、と、申、は、地、小、織、館、と、建、た、せ

牧方故城 元、和、年、中、廢、れ

牛頭天王祠 三、丈、地、下、所、あり、牧、方、の、生、土、神、と、い、ふ、例、案、六、月、廿、日、秋、原、九、月、廿、日、傳、ふ、に、德、天、皇、祠、あり、今、楠、爲、と、稱、れ

河六二五

長松山萬年寺 長松山、天王の社、頭、あり

奉尊十一面觀音 長八寸 藥作堂 兼作併と弘法大師作

行者堂 觀音堂の傍、あり

此地をむく、惟喬親王、清院、不、ゆ、ま、ん、時、仁、德、天皇、田、堀、一、つ、く、松、

放、一、つ、緒、さ、れ、く、南、山、大、樹、の、松、不、止、菓、を、營、て、離、孤、生、を、親、王、

教、怡、あ、り、く、時、々、行、啓、一、つ、く、津、持、一、た、ま、し、是、く、長、松、山、を、

舞、れ、其、尊、覽、ま、れ、を、け、山、不、埋、葬、一、つ、く、多、尊、塚、い、ま、つ、り、又、藏、谷、

少、い、く、履、中、天、皇、の、宮、庫、の、古、蹟、く、奉、尊、大、悲、の、像、と、

推、古、帝、の、時、時、高、藤、の、信、惠、澄、奉、朝、へ、渡、海、と、其、折、り、龍、風、

兼、松、孤、覆、さ、ん、と、い、これ、を、救、世、善、濟、不、禱、り、い、は、忽、祥、と、

安、泰、五、君、存、と、即、大、悲、の、等、像、と、傳、し、先、佛、圖、を、建、ん、こ、く、

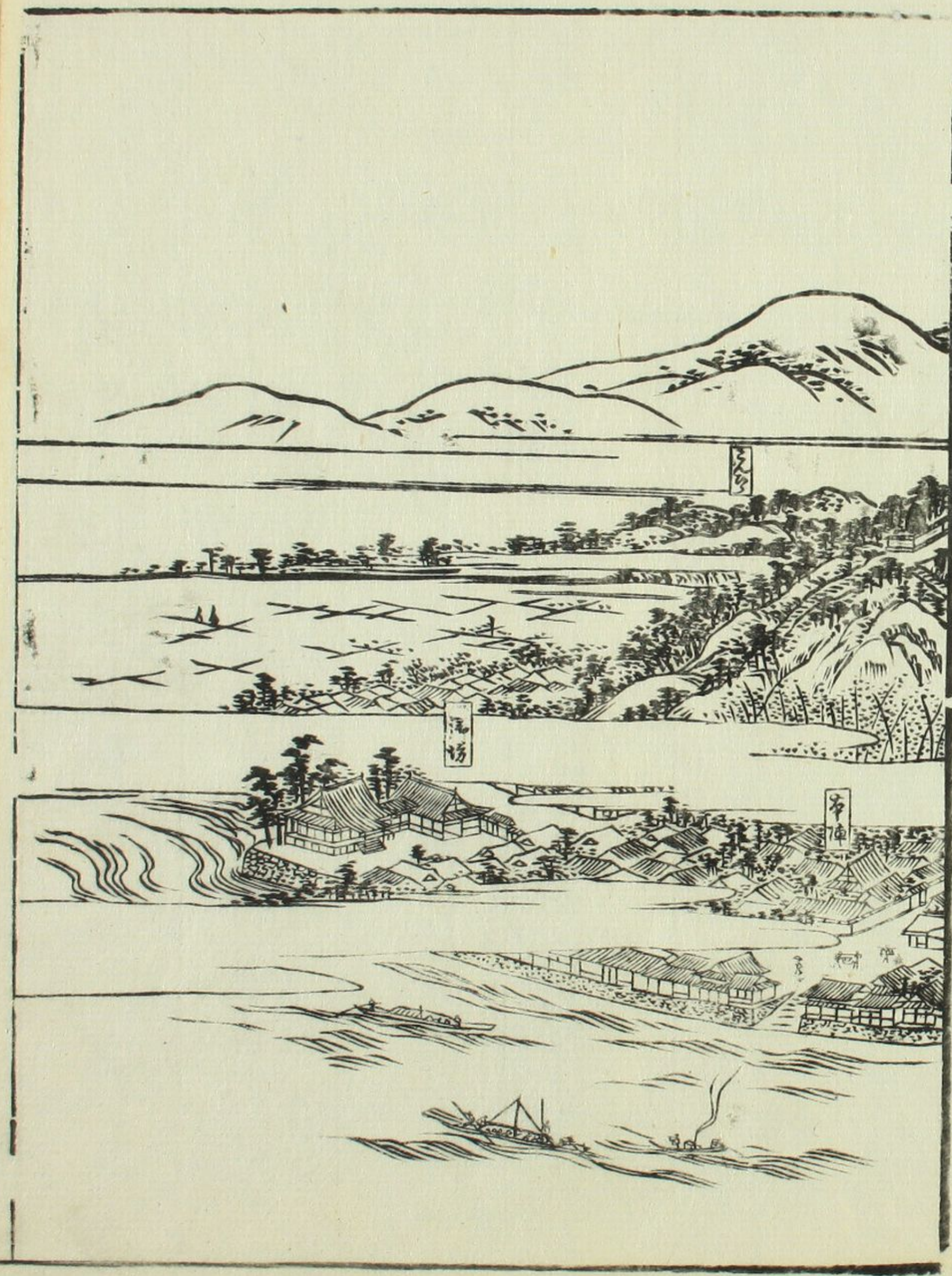
山、木、身、の、風、色、依、眺、不、中、華、の、林、岸、に、不、異、か、く、以、時、不、白、

髮、の、若、翁、忽、然、と、く、現、れ、白、檀、木、汝、を、い、く、一、至、衆、小、大、悲、と、

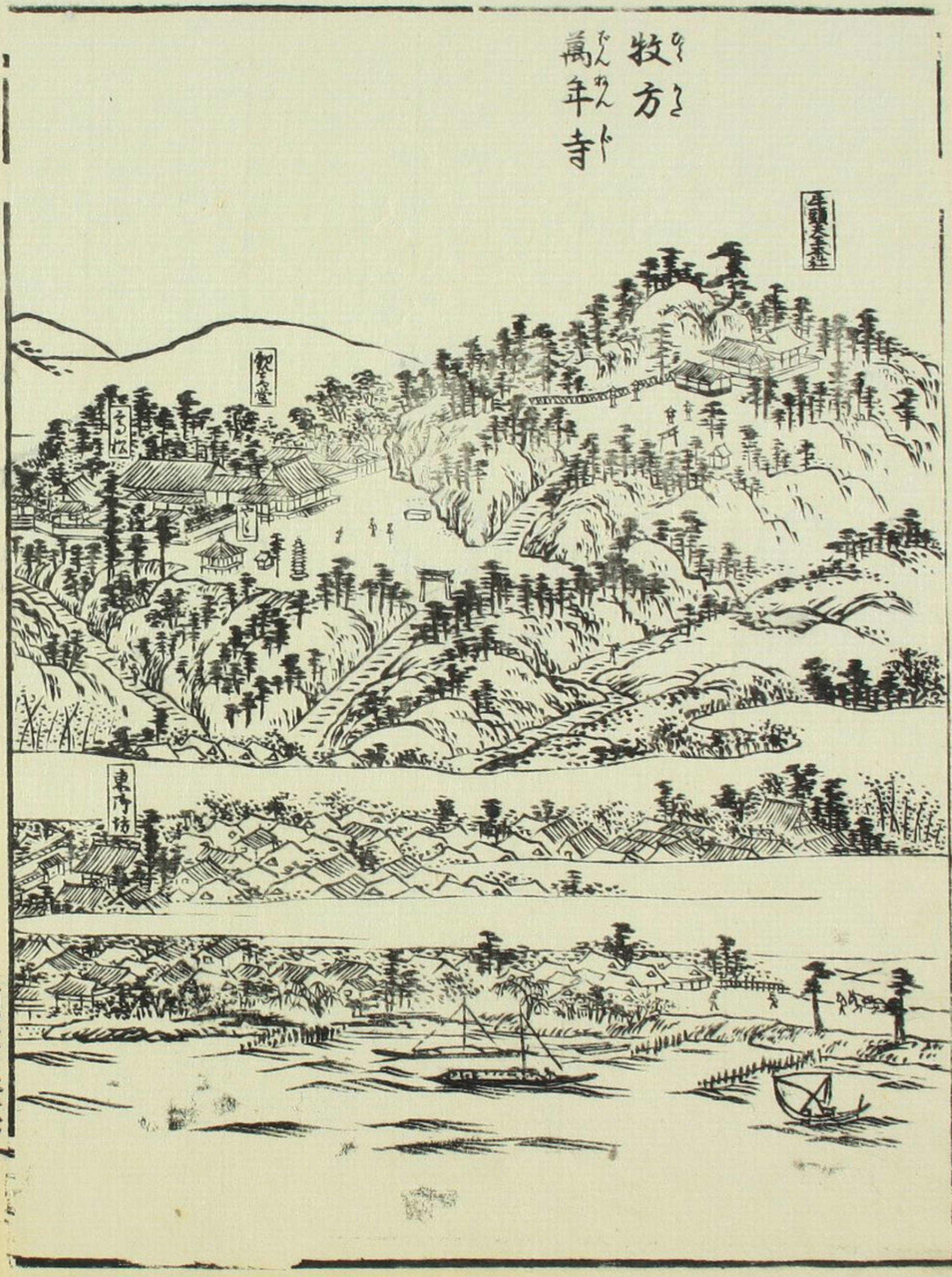
高僧を推して惠澤小興くわはる是三笠山春日神を祀りて
其後貞観二年の春醍醐の聖寶を降るる未だ慧々たる伽藍
建營し且くあく萬年通變の綱法を講さるる則て不
萬年寺を歸し密法の特全と稱し又貞観十四年小天下疫癘
流行して國民多く喪ふ其時 清和帝半頭天王の神璽を賜ふ
て疫の平金成はふり新しむ今此天王社これなり其より以前
弘法大師高野山往來の時此山あり業障佛成安しと國
平安成務りゆふ又厥后一條院沙門長保二年小諫議大文齊
光の子出家し寂照法師を歸し惠心洛都の上足り惠心
台宗の同目二十七條を作して唐土の智禮法師小使明せん
寂照小持し先渡唐なりし明州の津不至り南湖の智禮小持
て同論し其後此山に於て重病を受くる苦悩を此時當山の
大悲小平念成所其救世觀音松上小まを修む垂葉の祕方と

河六ノ二十六

授けぬ即これ孤服を忽平念して帰朝を其靈方當
寺小傳來しと諸人小施は今の混元丹これなり又長松を
寺前にありし今時まなく蒼々として霜雪小冒され
む千葉不朽の色を現をも亦靈場の奇物と云ふなり
東本願寺門跡坊 自願成願生坊と云ふ
本尊阿彌陀佛 名佛降の作
長三尺五寸許
此寺古蓮如上人八十一歳の時此處の季子法持大僧都實從の
藝なり噴真寺と号し幼名公九九魁と云ふ天正年中兵部左
衛門少輔再建すし尚も旧地を所南に遷す小實從上人の右邊あり
願真寺と云ふ名あり西流なり
本願寺門跡坊 寂如上人の附自願生坊と云ふ
本尊阿彌陀佛 安阿弥の
鷹塚山 此方の東にあり孤峯獨秀ふり一惟高親王意鷹を
愛を驚し一野の中小阿彌傳を云ひし
後谷 鷹塚山の傍にあり傳云履中天皇御時此所小宮庫を



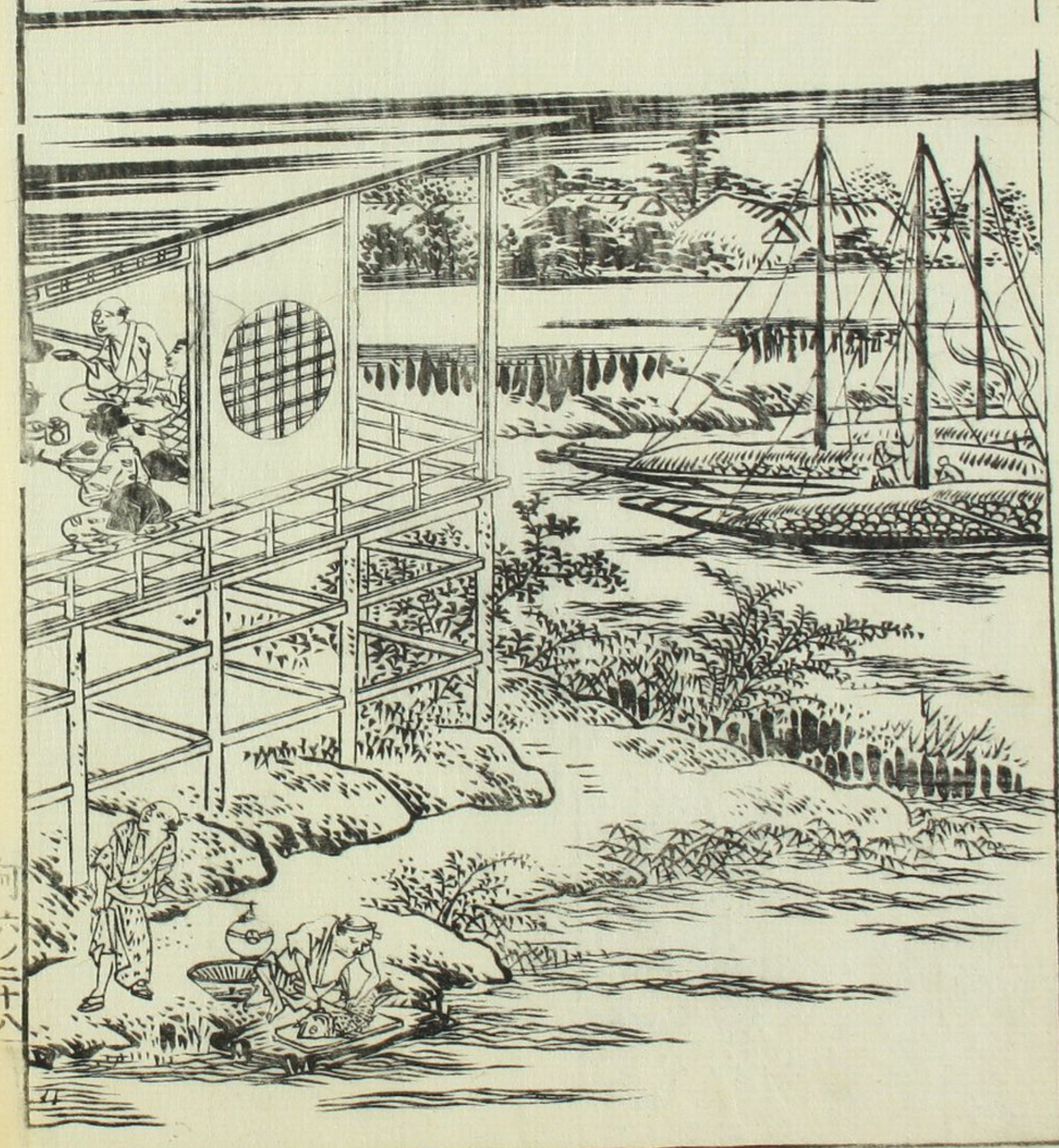
牧方
萬年寺



河

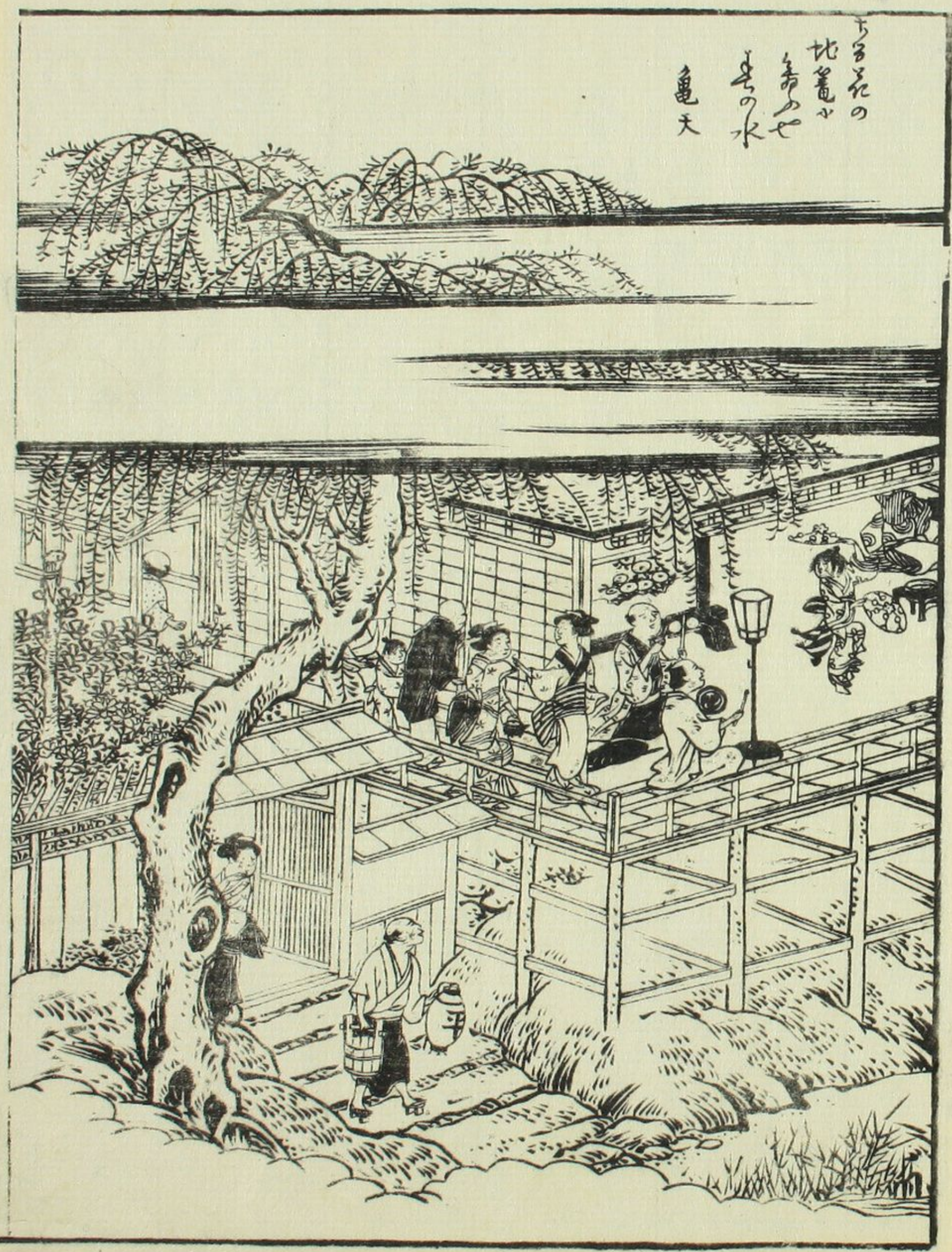
牧方驛

は驛を
新久しく
系附し
浪速へ通船
又い西國の
諸侯方
実東系動
の驛略
馬百疋
飯盛女
百人
むりりり
あひりり



河六二十八

ちり花の
地籠
糸の
水
龜天



交野郡

牧方渡 淀川と橋列大塚村へ渡れ其外出は淀川を橋列小渡と

監船所 系昨能念氏累世これを司ぬ

名産蓮 多那州 茄子 市店小出

烟州 那州 甜瓜 諸口村 西瓜 横地村 鯽魚 黒野村

貨食船 猪波津へ通ふ淀の河瀬舟を用ひて我と云く至と云く

強中の物と其船小舟にけりけりけりけりけりけりけりけりけり

船客を延べしき 風波の難あれを借けき出さくせられん

挑酒酌小爰居つれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ

痛王小為 貨食の憂ありて食へくや到ふ客船 斑 此

交野郡 東の山州 嶺喜郡 和州 下郡の三郡の界に至る西と茶田郡の界に至る

石船巖 北町斗小あり 此地左右我々へ青い山ありて使中ふ之巖ありて式丈餘

長サ五丈許 溪水石下流通しき水き清く小巖ありては是

和列の通路中して岩船越中より下流を道の左に流れ又右に

流りて由とて遮り所く小飛越の石あるを獨樂河りて

和市小流を末に淀川小入られ名ありて小入川と石船の

傍小佛像四軀梵字が鑄又石の玉垣有り土人は巖を任若明

神也稱しき毎来六月晦日村民より小巖より小巖を任若明

は神座石少く流をむりて和列南田原村石船明神の

神樂より小幸を故小石船岩よりよは来武今の慶一徳ふ

この地勢とるる小島山雨と雪と途まなく掃き流して常き自

相親し心寛小黃真人が羅浮山の水簾洞ふを比を産らんや

河内志小は石船山に上り峯を称する人壽幸記の地理

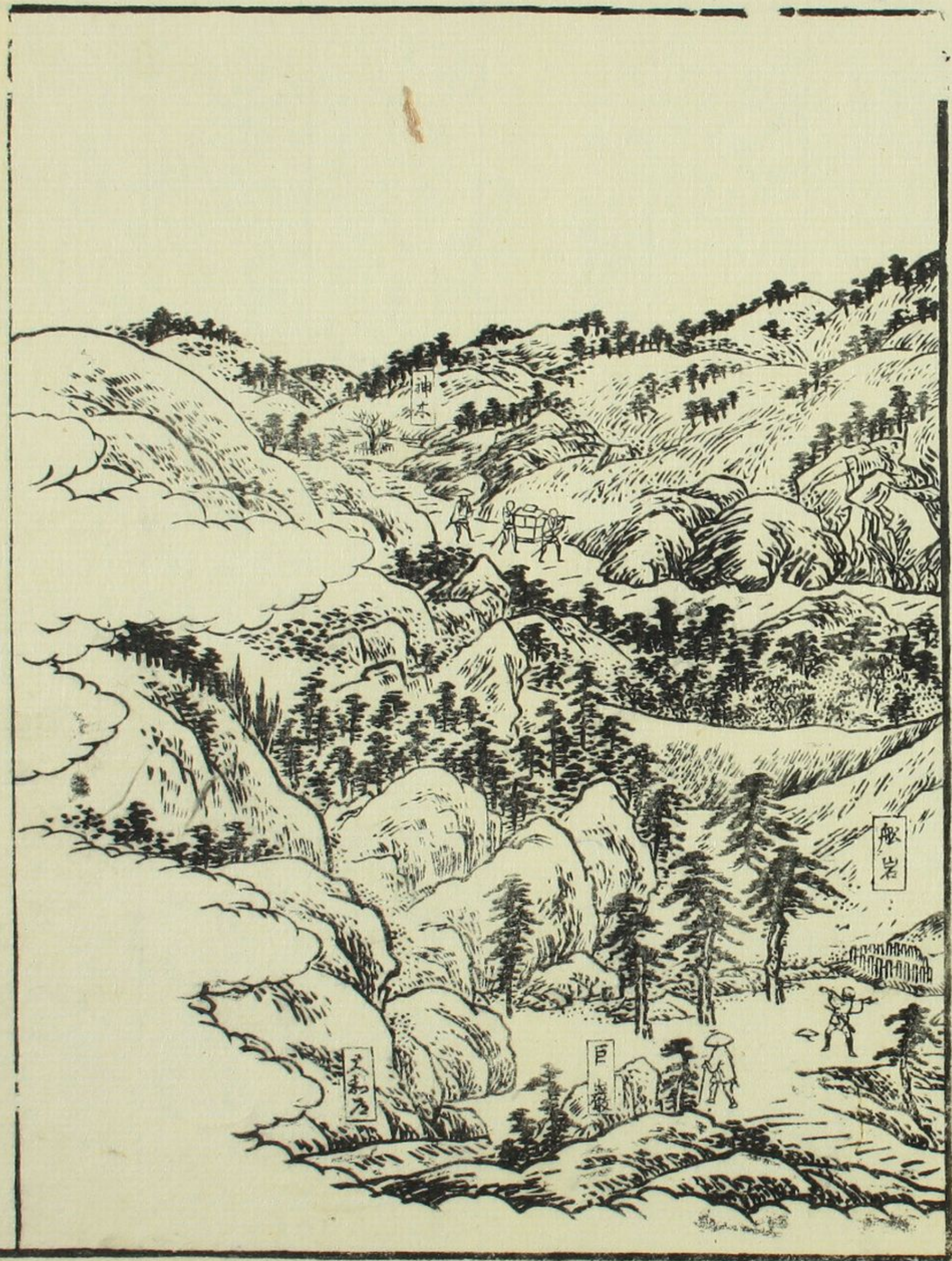
小遠より舟を初巻石川那の部下小記を

返滝 岩舟より式町并橋の方小あり巖四方よりそりて既ふ

あし小おみく 踏を板小船返滝とて又夏天旱の時と行

雨小折ふ小徳意を返滝とては露壺小上よりけり下

とわしき風情なり



いし
船
巖



河六ノ三十一

鮎返滝



妙見山 明聖村の東にあり、山頂に妙見菩薩の坐像あり、昔は妙見菩薩の御神主と云ふ

妙見神祠 妙見山の麓にあり、神代巨石の礎あり、昔は妙見菩薩の御神主と云ふ

住吉神祠 星田村の中心にあり、石砌の神懸あり

星田寺 社頭より三宮と稱せし、本寺を不勤寺と云ふ、星田の北にあり、昔は妙見菩薩の御神主と云ふ

八幡宮 石法村の東にあり、土人の愛染院、本寺は釈迦佛を祀り、星田の北にあり

旗立松 八幡宮の社前の老松と云ふ

星田尊蹟 河内志田星田村、甲の宮、後小尊蹟あり、大御神と云ふ

星石 三ヶ所あり、一は妙見山の麓にあり、一は星田光林寺の境内にあり、一は星田の北にあり

蒙盆女故址 星田の北にあり、昔は蒙盆女の御神主と云ふ

星田 三ヶ所あり、一は妙見山の麓にあり、一は星田光林寺の境内にあり、一は星田の北にあり

蒙盆女故址 星田の北にあり、昔は蒙盆女の御神主と云ふ

星田 三ヶ所あり、一は妙見山の麓にあり、一は星田光林寺の境内にあり、一は星田の北にあり

蒙盆女故址 星田の北にあり、昔は蒙盆女の御神主と云ふ

星田
妙見



河六二

聯光寺

打上村小あり天照山と号し大念佛宗
佐々木近寺小属也

奉尊阿弥陀佛

去日の他長を尺八寸又境内小十三坪の石塔あり
又一の寺あり私治三年丁巳九月卯信と稱す

石寶殿

當よりりそ何許興小あり按ずり石塔の表に
その又追年ハ御子々々金剛の壺大サを尺解の物

八十八家

日村小あり由編不詳
八十其教の多々なり

尊掛

石塔水八幡文より天照阿弥陀の奉尊
松石塔水八幡文より天照阿弥陀の奉尊

見山

私市村の山勢八所あり
真言律宗

新後撰

静に法親王御子の岩屋小松と傳り折小
ゆるりて降かゝく讀ゆりゆ

奉尊藥師佛

行基の他座像長三尺許又頻頭盧る
安ん雨を祈り小うりり靈應あり夏日本

野の

由編不詳
私市村の山勢八所あり

見山

私市村の山勢八所あり
真言律宗

新後撰

静に法親王御子の岩屋小松と傳り折小
ゆるりて降かゝく讀ゆりゆ

奉尊藥師佛

行基の他座像長三尺許又頻頭盧る
安ん雨を祈り小うりり靈應あり夏日本

野の

由編不詳
私市村の山勢八所あり

見山

私市村の山勢八所あり
真言律宗

新後撰

静に法親王御子の岩屋小松と傳り折小
ゆるりて降かゝく讀ゆりゆ

奉尊藥師佛

行基の他座像長三尺許又頻頭盧る
安ん雨を祈り小うりり靈應あり夏日本

野の

由編不詳
私市村の山勢八所あり

見山

私市村の山勢八所あり
真言律宗

新後撰

静に法親王御子の岩屋小松と傳り折小
ゆるりて降かゝく讀ゆりゆ

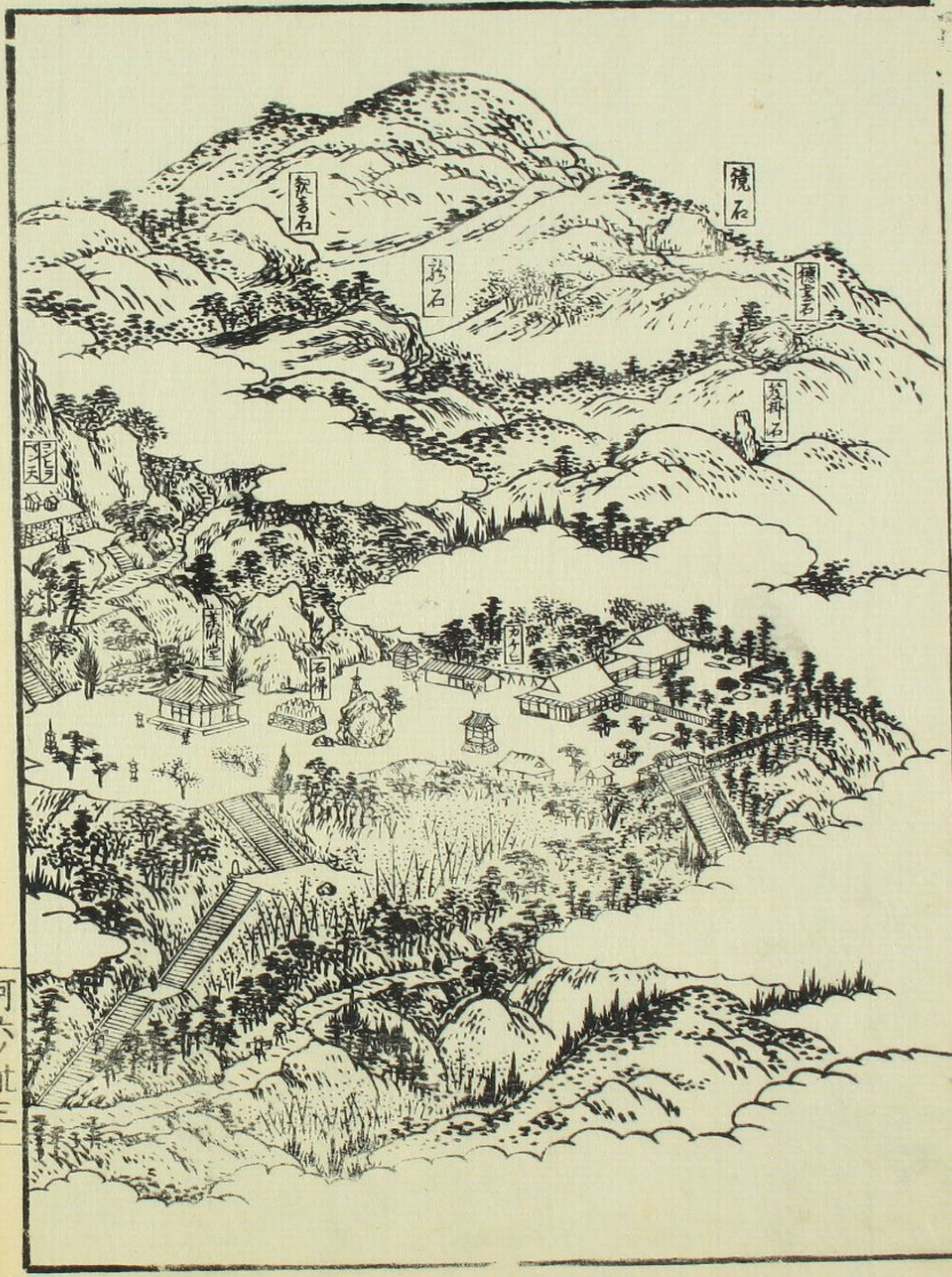
奉尊藥師佛

行基の他座像長三尺許又頻頭盧る
安ん雨を祈り小うりり靈應あり夏日本

野の

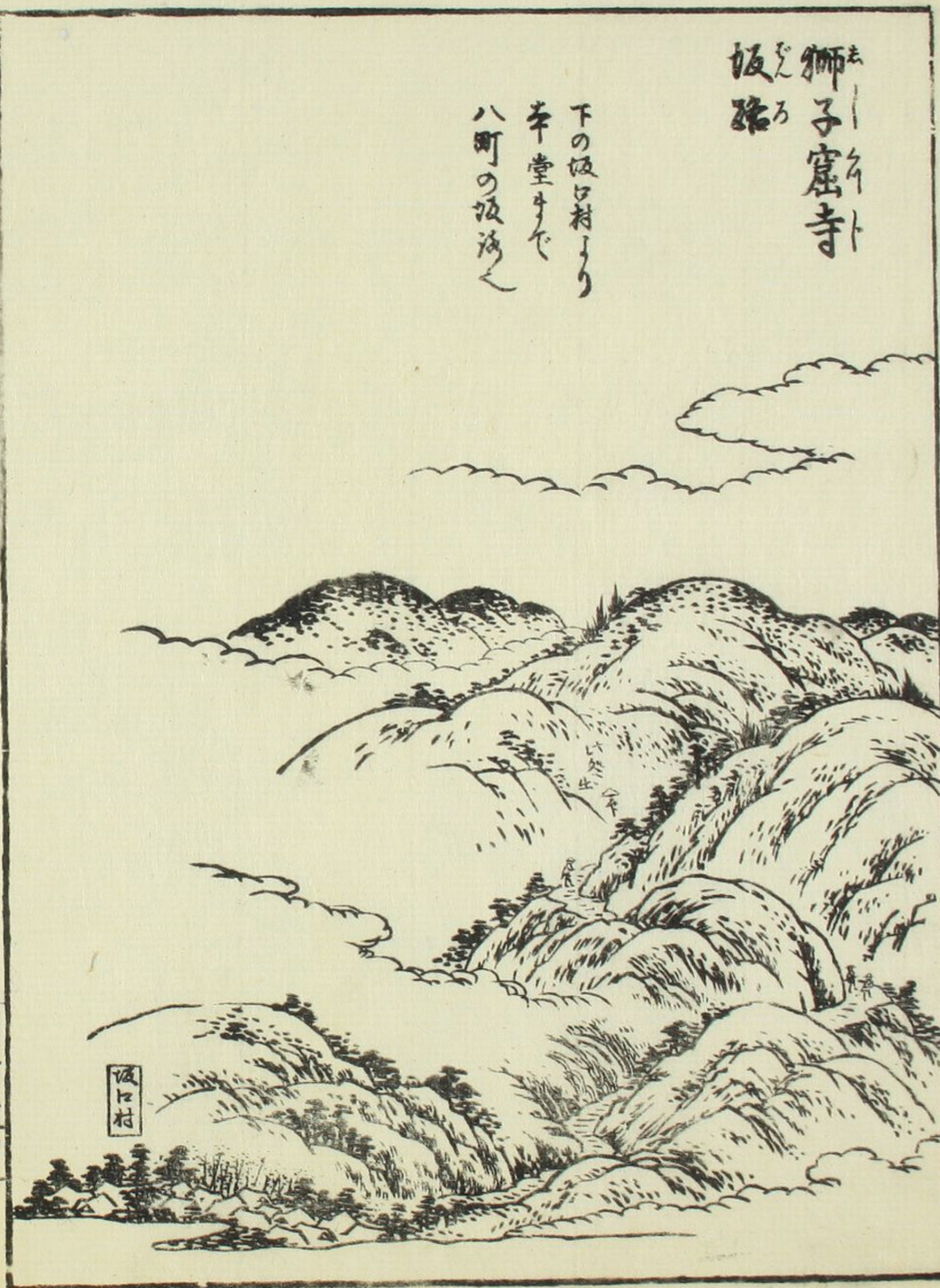
由編不詳
私市村の山勢八所あり

獅子窟寺



獅子窟寺
坂路

下の坂口村より
半堂まで
八町の坂あり



河六世四

獅子窟 本堂の北あり 中堂 金剛が観音窟を移し
 亀山院 本堂より坂路を何半許北あり 親王廟 院記小
 其報恩の寺 小増公建つ所の形 龜山院 山形 寺
 金剛寺の三所 小藏心金剛寺と
 紀州高野山 金剛峯寺あり 龜山院 山形 寺
 皇后墓 帝陵の側あり 龜山院 山形 寺
 鎮守 八幡文 寺あり 金剛峯寺あり
 龍石 中堂の奥三町あり 辨天石 祠の裡
 戒根泉 窟の中 天福石 一名 大黒石 坂路の
 玲瓏石 一名 親善石 奥院の 無底洞 窟の奥の
 牛卧石 二王門の趾 清涼壇 方丈の上
 虎嘯石 方丈の奥 寶篋印塔 當山の中央
 當山の記 日寺の主山 蒼翠盤礴 小く其躰 獅子
 地上 小窟 小窟より洞窟を深遠にして 狻猊の如く同く

吼聲一々小震ふ小髣髴たり佛殿を山腹ふとく天河と降る東
の方の系作を遙小して西の方根城を瞰む山は矢系画牒の圃を
のめ一奇巖性石山巔小聳へく深壑小構ふ松楸竹鬱密や
して森沈たり佛聖の宅さる所ふあふんを豈この絶勝ありんや
其来由は考ふに昔在役小角金剛山小居しぬ路ひりり
遙小は山頭小五彩の雲氣を小見く是正しく靈區之中を過ふ
錫と飛してあり小房を榛莽に披れ巖址を夷げ芽と縛く
一日窟中に冥坐して首は橋く親見さる小是地變じて淨瑠
璃世界と形る爾後け山を指て藥師如来の降去とん
聖武帝北涉宇小遠んぐ偕正行基勅形瓜養く梵刹と創し
宸具の立基小准して四隅の峰巒を四基と標しけ山と名く
中基とん復命とく金剛般若窟といふ窟前小度堂投
間松構ふ朱甍畫棟巖密を照耀と又經藏浄樓食堂僧寮

暨び二層の塔婆鎮守北神祠辨財天祠等依建く堂の左右小列
又一堂あり中小聖徳王復小角行基の三像と安ん外小金剛のつと
設く山場四至の結界小名寔德印塔依造とく尚山の鎮とん山
間小觀音巖徳雲石大黒石掛後石鏡石龍窟等の靈蹟あり其
僧房都く十二院其後一百有餘家を應く天長中弘法大師
け山に窟し壇依まき佛眼明妃の法と修れ三昧成就の時七曜
降下して山林に照耀と又表して獅子寶冠佛母尊乃母所ふ
か及者神祠と多々天河の左右小散立り抑神龜天平より文應
弘長小至く既小五百有餘家と應ふ其間某月綿遊りて棟宇
傾圮を適 龜山上皇玉體不豫なりこれ瓜熊野権現小構り持現
夢小告く曰聖躬の安康は保んと形れば則獅子窟の藥師佛小祈
登し於是 上皇車駕とめぐして除幸しぬ至誠祈信しなす
いよと幾形にけして皇疾頓瘳を歡情たひ小歡とん即有司小

命じて重く殿廢を興じ殿堂門廡煥然として一新に山下二里許小
 行宮の故基あり今呼ぶ院田里親善寺と云ふ又山右岩崖の下に
 古石塔婆二基有り荒草涼燼の中に屹立其其一皇陵より其一
 右后墓之殿后三百餘の星霜孤廢く文極慶長の騷擾小中て兵の
 為小毀れ金碧の區々として瓦礫の場やする寺有る亦亦とく見
 官府小隊凡呼味素回碧海須臾不改も侍中つ平を我山の河門
 月潭は寺記と識して當山小藏む

親善寺 真言宗 秘市村小あり龜王山と號し一名千手寺

本尊如意輪觀音 行基の作むる大慶あり諸堂魏々として
 龜山上皇の神牌 本堂小あり此地の字は院田と云ふ辨子堂の
 縁起不見くしるゆ 龜山上皇熊野権現の畫ありしりて善見山
 御影ありしりてしるゆ 後二條院の法皇御影ありしりて
 二年の嘉勅ありしりて本堂再興し一場舎ありしりて
 新鎮も寺ありしりて本堂再興し一場舎ありしりて

須弥寺 秘市村小あり龜王山と號し大念佛宗
 河六ノ四六

本尊阿彌陀佛 尾條郡 親善堂 千手大慈安ん封田の他長尺七寸
 後世今の宗名

嬰兒山 寺村の東にあり名區之山中小觀音各巖石あり孝小孫王
 夫本 祠あり歳旱の時必祈禱するに驗あり故小龍王山と云ふ
 わうてやらぬわぬわぬとて侍者みまると云ふ入るて事と云ふ 後人云ふ

佛示川 水源佛示村の山中より流く寺村流子池を
 佛示村の川小入

水室古蹟 佛示村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 八年八月河内國水室三寺に加入るに供養願念す時小
 これ依用也と云ふ今佛示村小

私部古城 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 松部村小あり長壽山と号す

先通寺 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す

本尊如意輪觀音 尾條長尺五寸用基別率和尚
 南朝 後村上院の勅願所あり

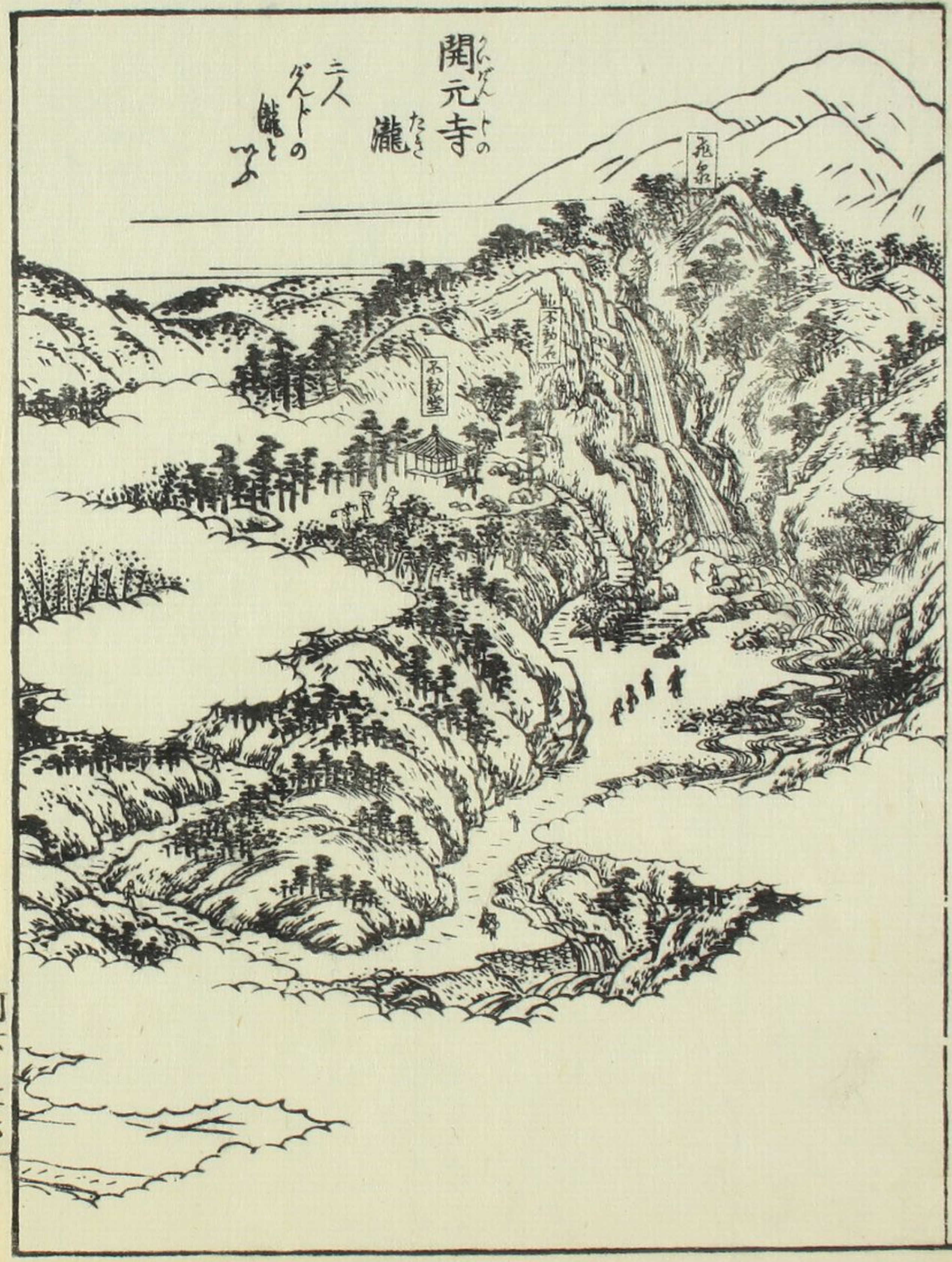
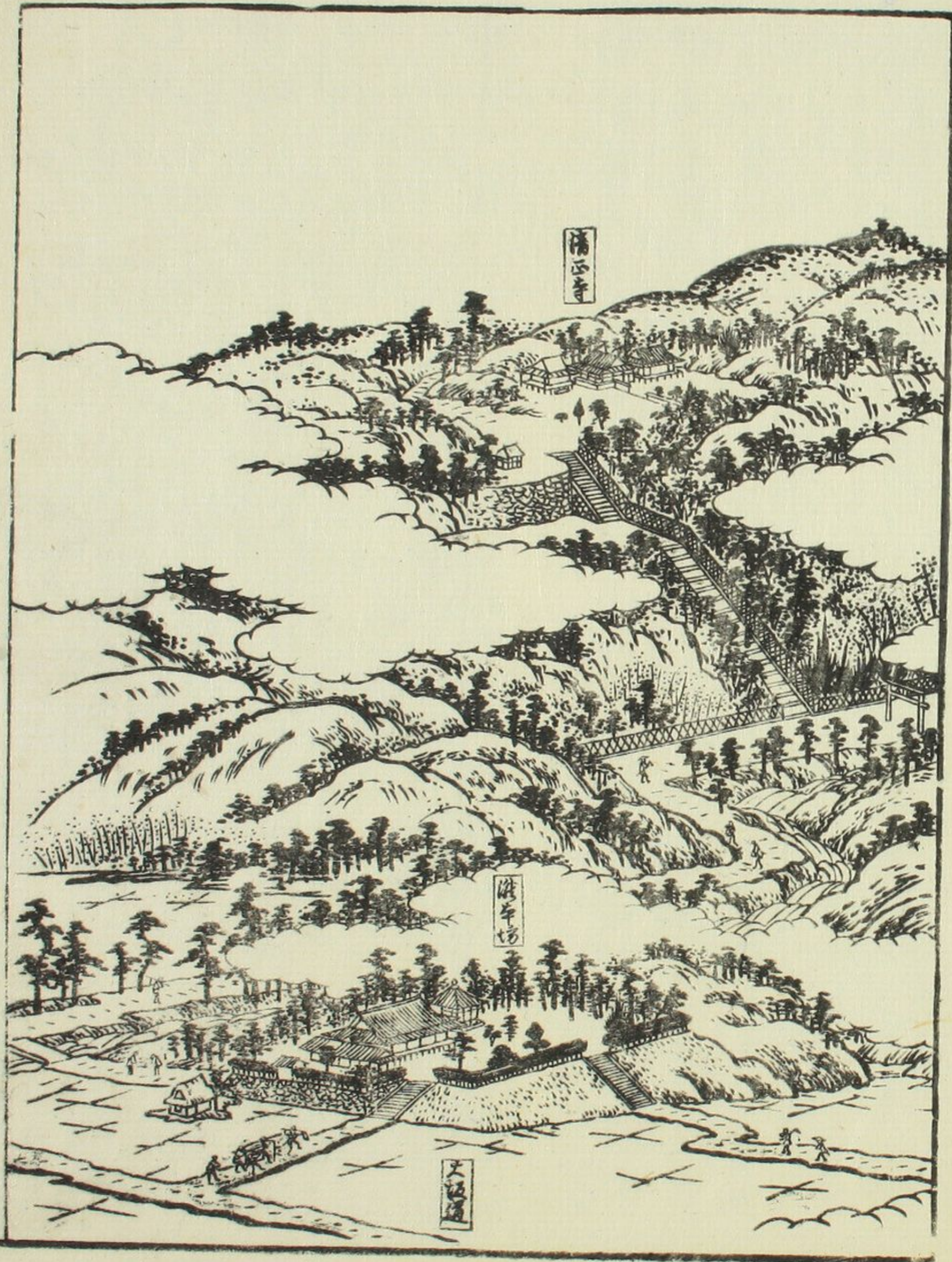
長寶寺 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す

梅塚 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す

中塚 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す

満塚 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す

平塚 秘市村松村寺延壽村の二邑あり今寺ありて長
 長壽山と号す



元寺 山麓村の東五町許あり一名倉部山麓といふ五丈

用元寺といふ津新の地あり不浄の者といふ

靈應あり長五丈八尺山麓津尾といふ三丈許あり又山麓といふ

津新あり又山の入口小麓平坊といふ天台宗の終焉あり

交野 山麓村凍の上方の勢あり五丈許小なる者といふ

機物 神祠の古蹟ありといふ

觀音寺 村野あり天野山といふ号れ奉正観音

津田古城 津田村あり天正年中廢

三宮 津田村あり神田村の生土神といふ津田といふ

見池 津田村ありといふ

河六十八

穂谷川 水原樹谷より流る穂谷村村津田村田村村あり

尊延寺 又五大宮安延村あり

杉妙泉 村あり

明尾寺 村あり

本尊十一面觀音 長武尺護摩堂

河内文首始祖博士王仁墓 石標王仁之墓

古今 かにいふはちやあの花をこりて今とまるとさくやこのまを

おほさかたのみとこれかふとてはみりてみるきとえはる時東宮伝

いふ人のいふ思ひてよとてたてはつて

國見山 坂の東にありといふ

小山墓 田村小あり

安樂寺 田村にあり

山田池 細田村あり



大村

我々
根
根

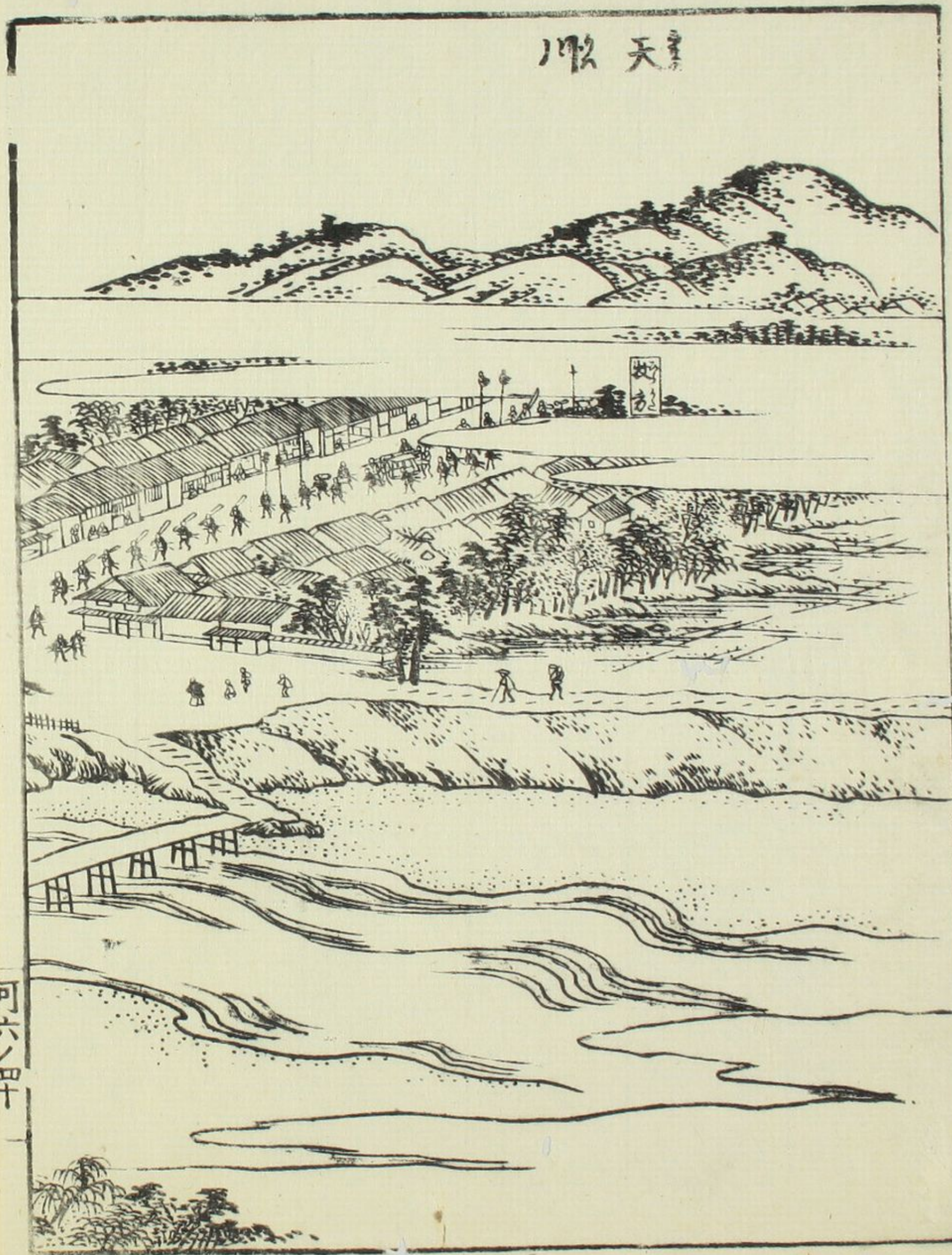
持
長
妻
え

糶
取

糶
暖
苗
小
舟
い
近
重
こ
こ



河六九



河六ノ界

天の川 水原和列 藤田郡 聖徳太子の御宇に於て天の川を造りて天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て

天の川の源より 天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て

天の川の源より 天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て

天の川の源より 天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て天孫降臨の御宇に於て

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

後醍醐天皇 天川をたるとりふ成はるる

新後撰 霞ぬるもやういふきみのうらふらふこの一橋の系相

續十 あつちのうらふらふのうらふらふのうらふらふのうらふらふ

新千 物じやうかこのうらふらふのうらふらふのうらふらふ

日 かりうらふらふのうらふらふのうらふらふのうらふらふ

新續古 君ゆれぬかこのうらふらふのうらふらふのうらふらふ

鳥立原 交野の中ふあり土人 登羅太知原とあり

百重原 交野原の一名あり 或力云 私市村あり

車塚 交野の村あり 惟喬親王清車塚あり

和田寺 禁里村あり 醫王山降院と号し 真言宗

本尊薬師佛 聖徳太子御長三尺六寸婦人妊身の時結れと云安彦

尚寺園基と弘法之作して本尊と初振別四天王寺小

後人武 老政大臣

大中臣 赤良

都芳門院 安藝

志房親王

権中絶言 鳥重

茶園白 老政大臣

鴨長明

在せし弘大降ろし小遷し終ふ其後貞観年中 文徳天皇御下

皇子 清和天皇は清兄惟喬親王あり小遷禰の時三足の雄波殿

院小飛入つて成を即これ弘塚小築く小祠を建る今若鎮守

これあり其後康永の頃廢蕪によりて棟黨和田新發意源

秀再興に因茲和田寺を改む什寶小大降真蹟の兩界曼荼羅

あり寺前に清持様あり初之樹を枯朽して極終に付と世國へ

百濟王靈社 中宮村ありは所の生土神といは例系九月朔日あり

傳云延暦二年の冬 桓武天皇交野小遷禰一のうらふらふ

行宮所小供奉其外利善。武鏡。元徳。玄鏡。明真等階小進人

て宮爵。秋賜ふ又西宮記云百濟王。交野の橋。接し其

址あり天長六年十二月遊り 年八十類原國史小見く

中宮池 中宮村あり 宇之茶塚 日村あり由縁

長者故居 甲斐田村あり 俗傳云むらじ長橋の橋柱あり

橋の柱あり 其の長者の身小矮ん其母戒し 其娘猶成長く

神代卷の長者 家小の... 射く... 獲ふ... 女... 和...

物い... 父を... 人... 又... 推... 取...

郊

祀壇廢蹟 杉村

延暦四年十一月壬寅天神交野の柏原に祀りて宿禰

賽とあり同六年十月甲寅大納言藤原繼繩

天神交野小祀皇高祖天皇とて配享以齊衡三年

十月大納言藤原良相を交野柏原に遣りて是上帝

郊祀と 後田原天皇も亦あり小配享に壇上の古蹟小老

杉あり今交野の一本杉と云ふ

波

波瀾院古跡 村小ありむり 權喬親王建統の時あり小頓宮と

親善安 真言宗 五本櫻 堂本にあり枯朽し

駒止 松日所小ありられも枯朽し 今後小あり

碑銘 寛文元年十月山別淀城主永井信別尚政の舎弟同修實寺家

銘曰 境近王畿

飛 遊而忘歸

白 櫻雪飛

翠 華雲靡

吟 以勸醉

在 昔為盛

烟 籠野水

遣 蹤復旧

花 月鎖村扉

亦 芳菲

去後日記 貫之土依の任てのゆりて道ゆく

後後撰 君意くはなふ宿れ梅花むりの者事程自ひは

むり... 是れみこりてとありはしなりふされの何れと

小あや... 所小宮ありはるまゝ毎のさうら花さかりあり

其宮へ形なり命... 家その時みさのむり乃うとありなりと

之時又在至矣大夫東北夫一且相議曰升相
之野在巨浪華之東北隅為其基礎今猶是
固宜置其材以再修乎庶哉成於集乎大
在為徒博募良工始畢其西室置相國慶
長七十年土本之事始畢其西室置相國慶
公之立蓋大府之事始畢其西室置相國慶
歲九千斛以杜其祠以嘗尊崇之小祝等
食為豈盛往昔之祠以嘗尊崇之小祝等
之為案盛往昔之祠以嘗尊崇之小祝等
旁隣九邨之獲社隱也歷年之庸之采地
廣壤九邨之獲社隱也歷年之庸之采地
寬政八年春本祠祝吾族子本親謀於九
邨之農氏興補廢墟尊之亦不之可謂固
復舊緒未幾及往昔之顯亦不之可謂固
也先是附庸大夫相讓曰往昔之顯亦不
今之東北則可得也惟然何有之不於古
昔之東則再修之鎮今之何有之不於古
是外浪華者而不知之今之何有之不於古
可外浪華者而不知之今之何有之不於古
意不在斯矣又成唯以九邨之過人非多而

河六甲五

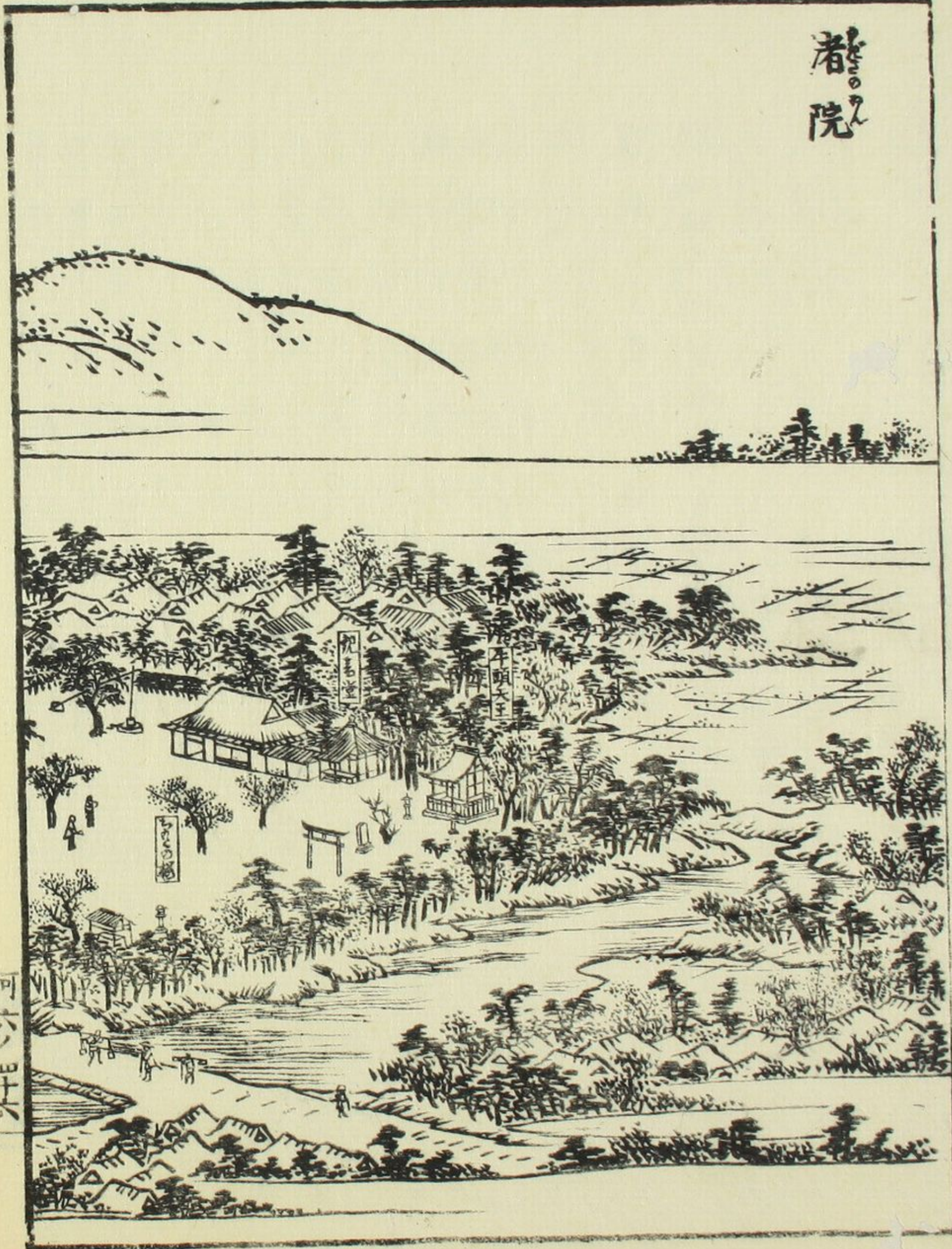
修飾之費非少故至今日而後始有北
鳴呼夫一隱一顯未必可相無所隱之
常多顯之時常少乃世人多無知有此
為故今此記其舊使不者知此
之有戴其取光春秋祭不懈怠則九邨
之薦田圃之供為不降福乎哉銘曰
不降福乎哉銘曰
一宮神祠人之所知與松喬德壽竹
隱而不顯益始龍維伏雷靈維
雨能降穀水不益始龍維伏雷靈維
京師經營不怠補修必時記以錫石
之貽
寬政丁巳之春

從四位下行式部權大輔兼大內記菅原朝臣長親 篆額
前祠祝岡田奉 拜撰
伏見岡田宗興 建
江戶海保奉鶴 謹書



弘安百首
 かの御分所
 洪の橋いく
 去う
 ねえてや
 りひ
 形ふ味らん
 法中定園

者院

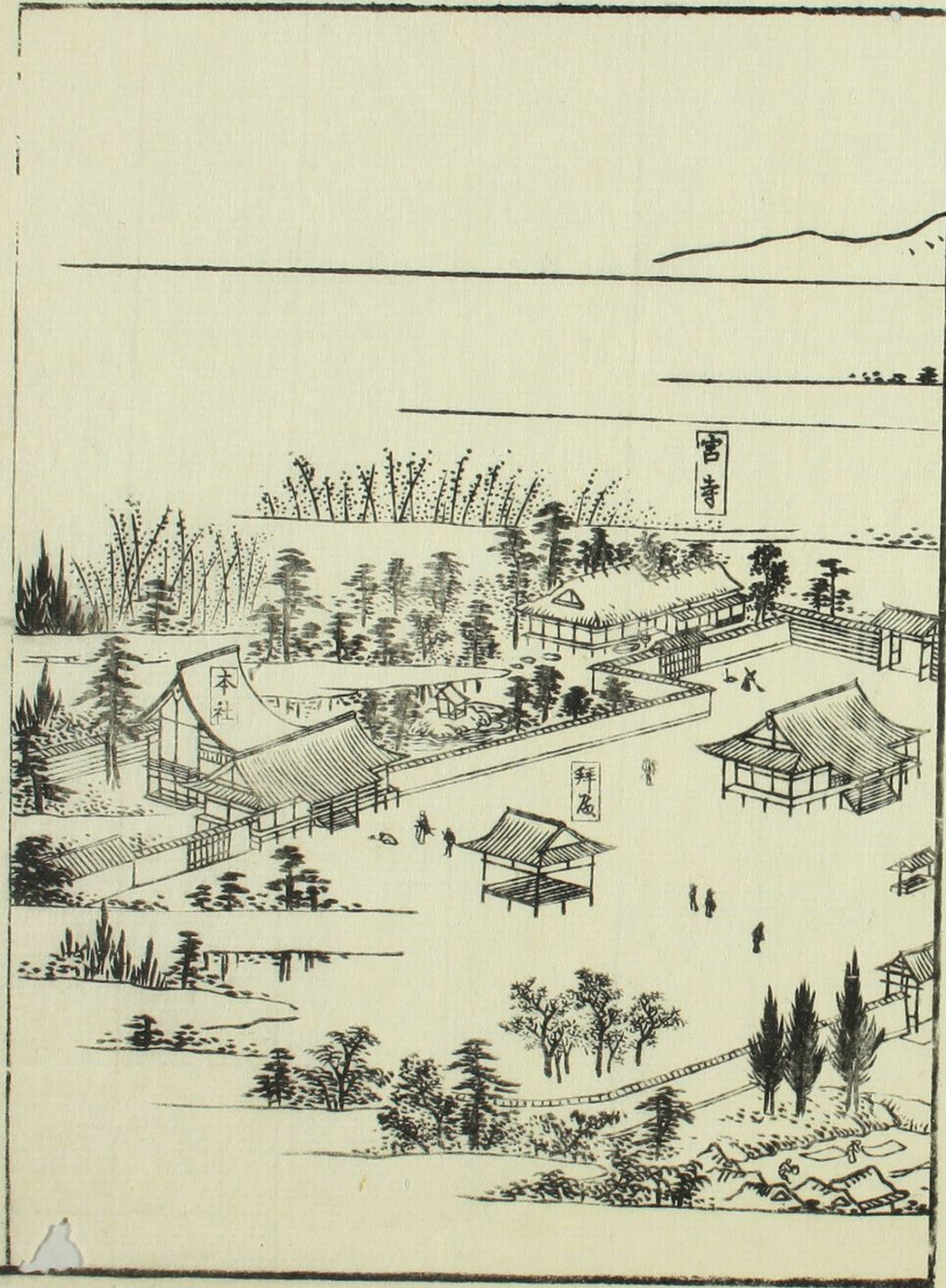


河六ノ四十六



遊親惟
獵王喬





交野神社
一宮

河六四

久須之美神社 延喜式出坂村の屬邑

二宮 舟橋村小あり 近隣三ヶ村の生土神と云

舟橋川 水原荒坂の南より流く 招提村小至り 洞ヶ瀬に墜る

霖雨の時山より落る 舟橋川より大橋のわき尾小入る

おんなりけふはゆふ舟橋川より大橋のわき尾小入る

万葉 舟橋川の一宮

去れて舟や舟足羽川のさふなり 大橋の上のわきのせり

大橋のほとりには家あははむく 獨りよに宿や舟

葛葉野 今の楠系村のわきり 天引遊獵の地なり

棹葉宮 ありし舟なり

日本紀曰 繼體天皇元年春正月甲申天皇

上 棹葉宮二月辛卯朔甲午大伴金村大連乃

民 治國重車也 寡一人不才不才以願請 廻子

擇賢者寡人 敢當大伴大連伏地固男諸大

大皆述天皇西向讓者三南向讓者再大伴大連等

楠葉渡口 淀川と波をくは所

寒ささうに妻布子着くく守

釋迦堂 楠系村小あり 一名久後園院 奉る立像 釋迦佛

藤原繼繩別荘 楠系村小あり 古跡の字 弘治元年

彌勒寺趾 楠系村小あり 一名足立山 幡の古記

告内小あり 道徳寺の古記 幡の古記 西海流刑を八幡

今男山小あり 道徳寺の古記 幡の古記 西海流刑を八幡

都名所拾遺 聖武天皇 殊小 冠過

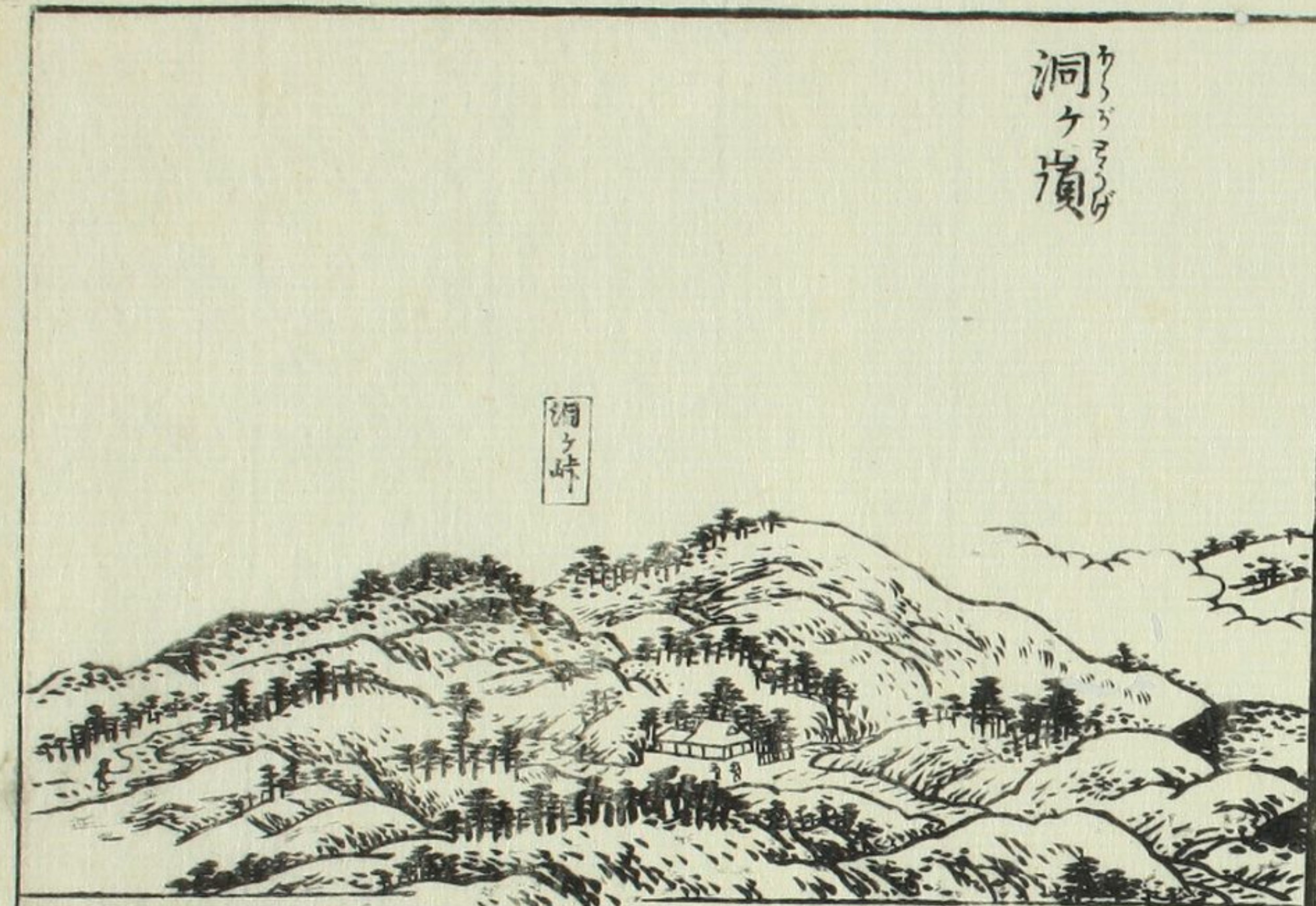
帳懸松 舟橋村小あり 舟橋村の界にあり 山勢に

百濟王敬福 舟橋村小あり 舟橋村の界にあり 山勢に

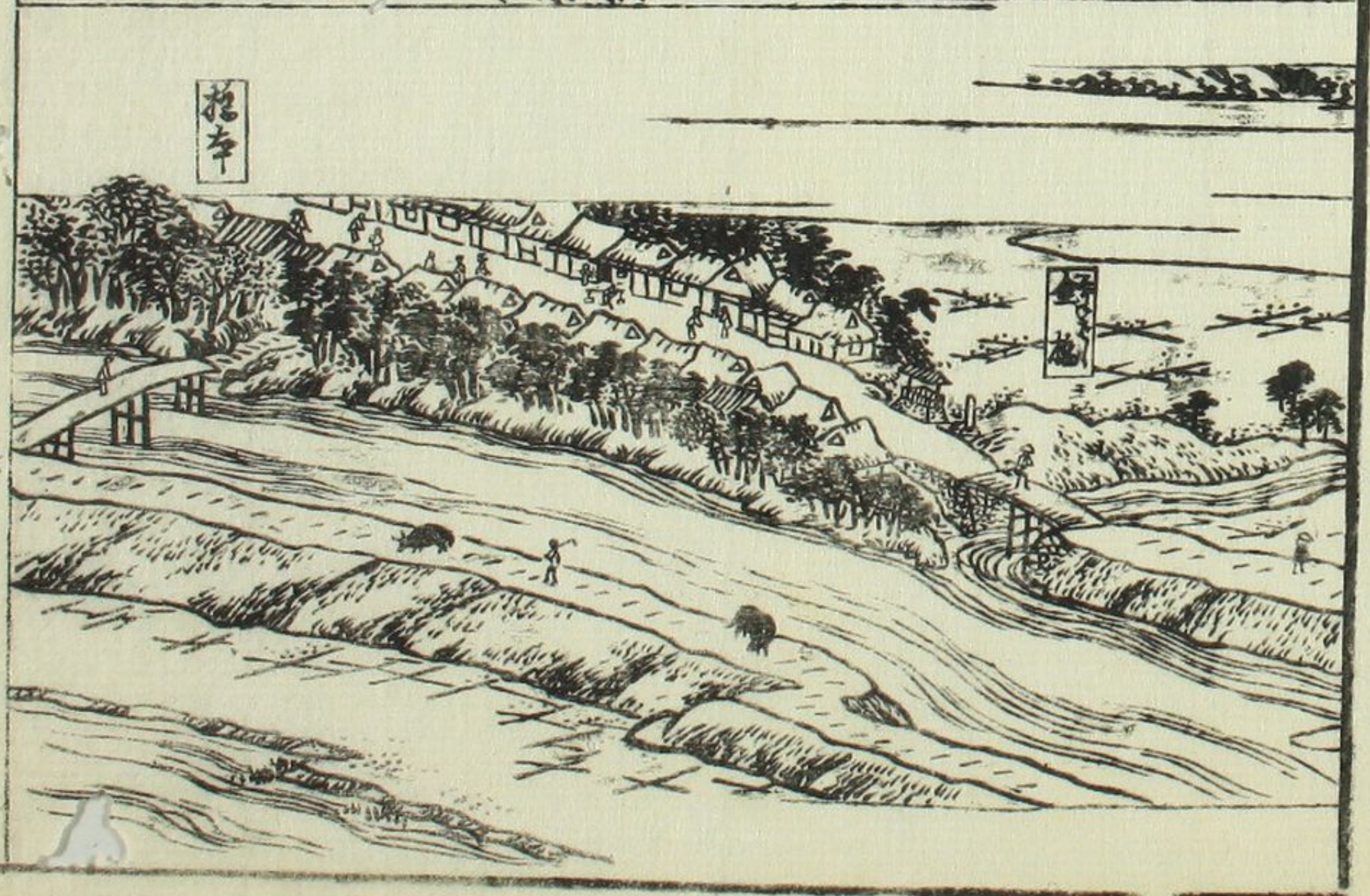
政事 舟橋村小あり 舟橋村の界にあり 山勢に

洞ヶ嶺

洞ヶ峠



松幸



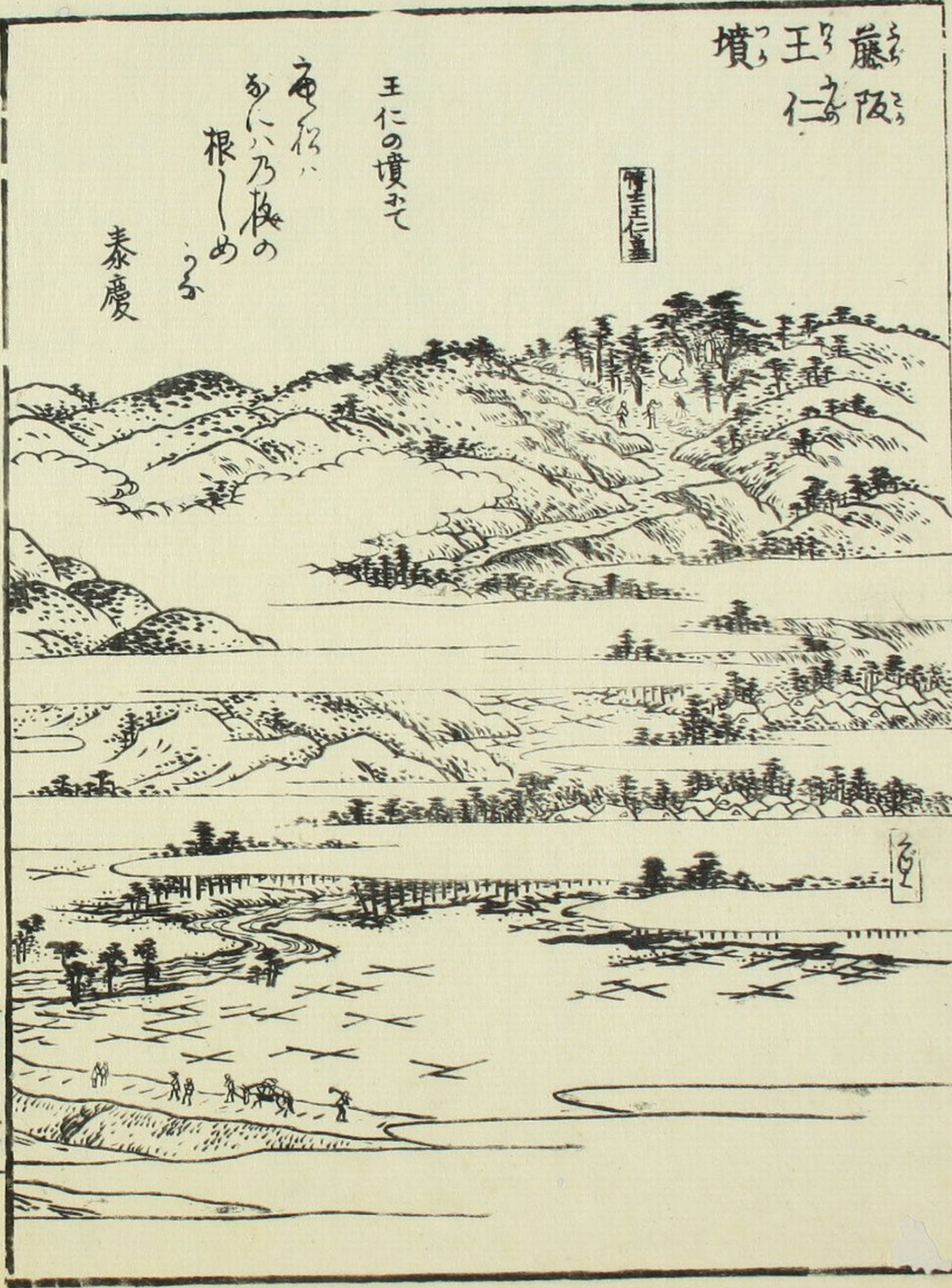
巖王墳
仁阪

仁王墓

王仁の墳

あはれ乃根の
根しめ

泰慶



河六ノ五十

